白石市文化財調査報告書第17集

三部山遺跡調査報告書



昭和52年3月白石市教育委員会

白石市中心部の北、福岡地区は、ふるくから遺跡の多い場所として、知られているところです。

警察計遺跡は、その一つで、白石市福岡、高野英雄氏の宅地造成に伴い緊急発掘調査された遺跡であります。

このたび、調査報告書がまとまり発刊のはこびとなりました。

この報告書は、白石市の郷土史はもちろん、東北地方の歴史を究明するうえで も、貴重な参考資料になると思います。ご活用くだされば幸に存じます。

最後に、この発掘調査にあたり、ご尽力いただいた白石市文化財保護委員会委員中橋彰吾氏、同高橋辰男氏はじめ、宮城県教育庁文化財保護課調査第1係長後藤勝彦氏、同第2係長斎藤良治氏、また、今回の発掘調査に伴い、植生調査でご協力いただいた上野雄規氏、佐々木敏雄氏、ならびに調査協力者各位に対し、深く感謝の意を表します。

昭和52年3月

白石市教育委員会

教育長 小 沢 五 郎

例 言

- 1. 本書は白石市教育委員会が宮城県教育庁文化財保護課の指導を受けて実施した、三部山遺跡の発掘調査報告書である。
- 1. 本遺跡の調査は昭和51年8月17日から9月2日まで実施したが、この間、降雨のため調査を中止した日もある。
- 1. 本遺跡の調査前に上野雄規、佐々木敏雄氏によって植物調査が行なわれ、上野雄規氏によって報告がまとめられたものである。
- 1. 石器の石質については駒板典義氏の同定によるものである。
- 1. 出土遺物や調査中の写真は菊地逸夫、北爪均が担当し、撮影したものである。
- 1. 出土遺物中チップについてはまだ未整理であるが、遺物の整理は調査員全員で行なった。
- 1. 石器の実測と作図は阿子島香、佐川正敏が担当し、土器の拓影は相原淳一が行なった。
- 1. 遺物の実測作業および作図や、遺物の観察等については、東北大学考古学研究室の諸氏より多大の助言と御指導をいただいている。
- 1. 報告書の分担執筆は下記の通りであるが、全体の編輯は中橋彰吾が行ない、挿図、図版等の表現は協議の上統一をはかった。

まえがき 中橋彰吾 I 三部山遺跡の位置と地形 中橋彰吾 Ⅱ 周辺の遺跡と環境 中 僑 彰 吾・相 原 淳 一 Ⅲ 遺跡の植物 上野雄規 Ⅳ 調査実施要項と調査日誌 阿子島 V 調査の方法と概要 中 橋 彰 吾・阿子島 VI 出土遺物 1. 土 器 中 僑 彰 吾・相 原 淳 一 2. 石 器 香•佐川正敏 阿子島 Ⅵ 考察とまとめ 中橋彰吾 ₩ あとがき 中橋彰吾

1. 本書の第1図は、建設省国土地理院長の承認を得て、複製したものである。(承認番号・昭52・東 複第186号)

まえがき

*^^ *** 三部山遺跡は、かつては田上遺跡の一部として把握されていた。

田上遺跡は、天津沢川北岸のやや高まりをみせて東方にのびる台地上にあり、遺物の散布は 量の差異はあるが、広い地域にみられ、三部山地区はその東端部に位置している。

この地域で採集される遺物は、石器(石鏃・石匙・不定形石器)や石屑が多く、土器はほとんど採集されず、遺跡の編年的位置づけなども不明であった。この田上遺跡とともに、同じように土器の採集されない遺跡として、天津沢川をへだてた対岸の台地上にある向山遺跡も、早くから特異な遺跡として地方の研究家に知られていた。

このたび、三部山遺跡の一部が宅地化されることになり、白石市教育委員会は**当**事者側と本 遺跡について協議を重ねてきた。

この間、宮城県教育庁文化財保護課調査第1係長・後藤勝彦氏の現地視察等があって、白石 市教育委員会は当該地域の発掘調査を実施することにした。

筆者が、4月に最初の現地踏査を行なったときは、遺跡内の雑木林が伐採されており、その 林床には背の低い植物が繁茂していた。その後、遺跡をおとずれるたびごとに、これらの植物 は生長を早め、7月には人の背をはるかに越し、その生長の早さには目をみはるものがあった。

このような植物も、地表を掘り返されたり、道路や住宅の建設等による環境の変化などによっては、全くみられなくなってしまうものもある。こうした植生の変化や遺跡環境を把握するために、発掘調査区およびその周辺の植物の調査を、上野雄規・佐々木敏雄氏の協力をえて実施した。

発掘調査は日程の都合もあって、8月15日から31日までの予定であったが、最初から雨にたたられ、8月17日から開始、途中しばしば雨によって調査が中断されたが、9月2日に調査を終了した。

調査期間中に、宮城県教育庁文化財保護課調査第2係長・斎藤良治氏の現地指導を賜わり、 記して感謝の意を表します。

中橋彰吾

目 次

序			文	白石市教育委員会教育長	小	沢	五.	郎		
例			言							
ま	え	カ	ジき		中	橋	彰	吾		
Ι		=	部山遺	跡の位置と地形・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• • • • • •	• • • • •				1
II		唐	辺の遺	跡と環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• • • • •	• • • • •	••••			3
Ш		遣	遺跡の植	[物	上	野	雄	規	•••	4
	1		白石厝	辺の植生・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			••••		••••	4
	2		遺跡の	植生概観	• • • • • •	• • • • •	••••			4
	3		分布上	:の貴重な植物	• • • • • •	• • • • • •			••••	7
	4		遺跡に	産する高等植物目録	• • • • • •	• • • • • •				9
	5		考	察	• • • • • •	• • • • • •	••••			19
IV		誹	直実施	í要項と調査日誌······	• • • • •					33
	1		調査実	6. 施要項	• • • • • •	• • • • •				33
	2		調査日	誌	•••••					34
V		誹	査の方	i法と概要		• • • • • •				36
VI		出	土遺物	J	• • • • • •	• • • • •				44
	1		土	器						44
	2		石	器					• • • •	47
VII		7	答案とま	(とめ	• • • • • •	•••••				59
	1		遺跡に	:ついて	• • • • • •					59
	2		土器に	:ついて······		• • • • • •				59
	3		石器に	: ついて	• • • • • •	•••••			••••	60
	4		まと	Ø	••••	• • • • •			••••	60
VIII		ð,	とがき		• • • • • •					61
図			版							
丰			紙(二	1シノカンアオイ)						

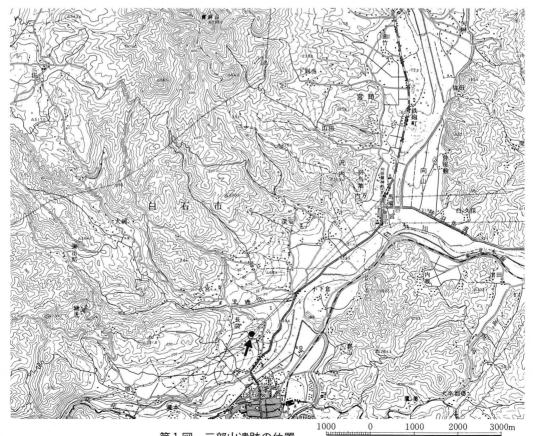
Ⅰ 三部山遺跡の位置と地形

三部山遺跡は白石市街地の北方約1.5km、標高約78m程の白石川左岸の浸食段丘上に位置し、 白石市福岡字長袋三部山地内の畑地および雑木林に所在する。

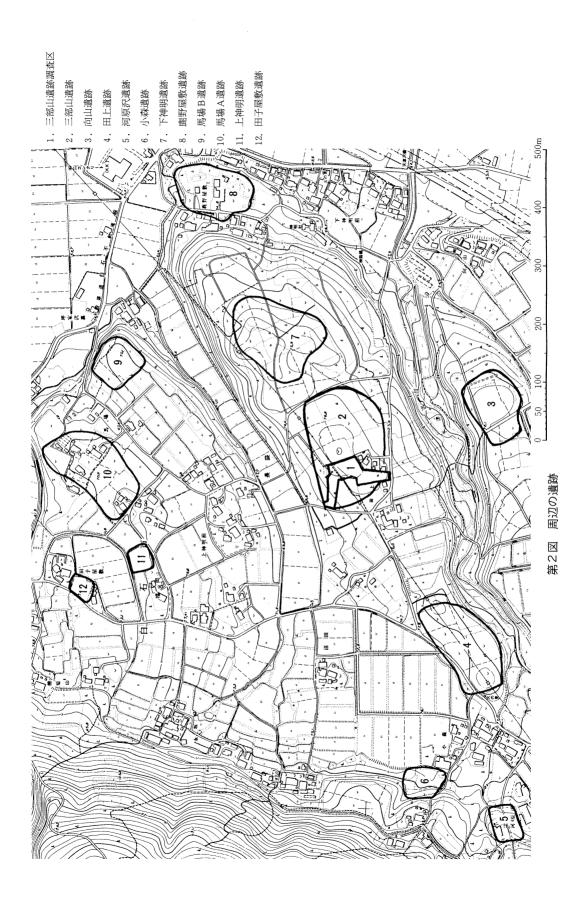
この地域の地形は、奥羽脊梁山脈蔵王連峰東麓部に派生するいくつかの複雑な山稜が南東に 走っており、その末端部が浸食されて段丘や扇状地を形成し、白石盆地に接している。こうし た段丘は白石川左岸沿いに発達しており、原段丘、長袋段丘、三本木扇状地、深谷段丘などと 地形的に大きく区分されている。

本遺跡の所在する長袋段丘は、蔵王山東麓末端の南部山丘陵(標高約200~290m)の東端部 が浸食形成されたもので、南部山丘陵の南麓を天津沢川が、北麓を児捨川が共に東流して、南 の原段丘や北の三本木扇状地と切断されており、舌状を呈している。

本段丘の東方は標高約40m程の低い平坦な水田地帯で、白石川の氾濫原である。この地域を 東北縦貫自動車道および国道4号線と国鉄東北本線が、白石川をはさみながら平行して南西か ら北東方向に走っている。



第1図 三部山遺跡の位置



Ⅱ 周辺の遺跡と環境

三部山遺跡の所在する長袋段丘は、白石盆地のほぼ中央に近い西縁部に位置している。

白石盆地は、白石・宮(蔵王町)・円田(蔵王町)を結ぶ南南西―北北東の方向に長さ約23 km、平均幅約2km程の細長い盆地で、この地方の主要な居住地域および農耕地帯となっている。白石地方の遺跡は、盆地西縁部の段丘や扇状地上に多く、特に盆地南半部に集中的にみられる。近年東北縦貫自動車道関連遺跡として発掘調査が行なわれた、菅生田遺跡、青木遺跡、松田遺跡、家老内遺跡、二屋敷遺跡などは、こうした段丘上に位置している遺跡である。

長袋段丘は、南を天津沢川、北を児捨川によって切断された東西約1km、南北約800m程の舌状を呈している。段丘は東縁部から南縁部にかけては、やや高くなっていて、東縁には、水田面よりの比高約35m程の段丘崖がみられ、西方の段丘基部と北方に向って、ゆるく傾斜している。

このやや高まった東縁から南縁部は、段丘全体の約三分の一をしめ、山林および畑地が多く、 三部山遺跡、田上遺跡、下神明遺跡などが所在する。

南部山丘陵麓の段丘基部から中央部および北縁部にかけては、平坦な地域で、全体の三分の 二をしめており、住居地や水田地帯になっている。田子屋敷遺跡、上神明遺跡、馬場A・B遺跡等は北縁部に位置し、宅地周辺の畑地から遺物が採集されている。この北縁部は段丘崖を形成せず、ゆるく傾斜をみせながら児捨川氾濫原の水田地帯に接続している。

番号	遺跡番号	遺跡名	所 在 地	立地	種別	地目	時 代	出 土 品
1 5 2	02325	三部山遺跡	長袋・三部山	段丘	包含地	畑地 山林	縄文(早·前期)	縄文土器(沈線文・条痕文 ・縄文 (繊維入)) 石鏃、スクレパー、磨石
3	02044	向山遺跡	√ • 向山	"	"	畑地 墓地	縄文	石鏃、石匙、石斧
4	02043	田上遺跡	″・田上	"	"	畑地	"	縄文土器(繊維入) 石鏃、石匙
5		河原沢遺跡	// ・河原沢	丘陵麓 斜 面	"	"	"	スクレパー
6	02041	小森遺跡	″ · 小森	"	"	畑地	縄文・奈良・ 平安	石鏃、石匙、土師器
7	02039	下神明遺跡	″ · 下神明	段丘	"	"	縄文・奈良・ 平安	スクレパー、 土師器、須恵器
8	02294	鹿野屋敷遺跡	″・鹿野屋敷	段 丘斜 面	包含地• 館 跡	畑地 山林	縄文・奈良・ 平安・中世	スクレパー、土師器
9	02037	馬場A遺跡	″・馬場	段丘	包含地	畑地	縄文	スクレパー
10		馬場B遺跡	" • "	"	"	"	"	スクレパー、石鏃
11	02038	上神明遺跡	// ・上神明	"	"	"	縄文・奈良・ 平安	石鏃、土師器・須恵器
12		田子屋敷遺跡	〃・田子屋敷	"	"	"	縄文	石 器

〈遺跡番号は宮城県遺跡地名表記載の番号である〉

Ⅲ遺跡の植物

1 白石周辺の植生

1年中緑の葉が照るタブノキやカシ類の繁る常緑樹林は、暖帯地方を故郷として、暖温帯の 三陸沿岸南部までみられる。また、春秋の葉の変化がより多彩なブナの繁る夏緑広葉樹林は、 冷温帯地方を故郷として、県内では東北山地の中腹に広がっている。

この遺跡を含む白石地方の丘陵地帯は、2つの樹林帯のちょうど移行部にあたる。

この地方は、人間が住みつく前の原生林として、また、このまま何十年も何百年も人の手を加えないでおいてできる極相林として、モミーイヌブナ林が主役とされている。今では、そうした自然の名残りをとどめているモミ林は、沖の沢、傑山寺、小久保平、入山などでしかみることができなくなった。ほとんどの緑は、モミ林が破壊された後、二次的に成立したコナラークリ林やアカマツ林、あるいはスギ、アカマツ、ヒノキなどの植林からなっている。

この遺跡を調査した時の植生は、アズマネザサーフジ群落であった。以前はコナラークリ林だったのが、1976年春に伐採され、その後約半年たって現在の植生が成立したのである。

2 遺跡の植生概観

遺跡の植生をつかむために、 2×2 m²の調査区を5 $_{r}$ 所設けた。そして調査区内に生えている種類を明らかにし、それぞれの植物についてブラウンーブランケアの総合判定法によって評価した。

優占度と評価値は、次の通りである。

優占度	表面を覆う割合	評価値
5	7 5 ~ 1 0 0 %	87.5
4	50~ 75%	62.5
3	25~ 50%	37.5
2	5~ 25%	17.5
1	5 % 以下	5.0
+	極めて低い	1.0

また、調査の結果は組成表に示してある。

遺跡全域から採集・観察された植物は156種類にものぼる。5つの調査区内には、その約44%にあたる69種類が確認できた。

それらの中で最も優占的にみられるのは、アズマネザサである。"東国根笹"は和名からも

わかるように関東~東北地方に広く分布し、原野や雑木林の伐採後によく群落をつくる。遺跡に接する小墓地には、コナラークリの林分が残っている(写真3,4)が、アズネザサはさほど目立たない。それが遺跡では優占度3~5でほとんど全域に生えていることから、春に伐採した後、急に繁茂したことがわかる。

伐採前、コナラークリ林を構成していた樹木は、その切り株から萌芽を形づくり、小塊状となってみられる。第1調査区(写真5)のコナラ、ウワミズザクラ、ウメモドキ、第2調査区(写真6)のウメモドキ、マルバアオダモ、イタヤカエデ、第3調査区(写真7)のエゴノキ、ヤマウルシ、第4調査区(写真8)のコナラ、クロウメモドキ、サンショウなどがそうである。調査区外でも、アカシデ(写真11)、イヌシデ(写真12)、ウラジロノキ(写真15)、ハシバミ(写真17)、オトコョウゾメ(写真23)など、大半の樹木は萌芽を形づくっている。これらの写真をみるとわかるように、萌芽は、切り株から東状~放射状あるいは椀状に生え、葉の大きさが、成木のそれよりも著しく広大となる傾向がある。

これらの萌芽は、年がたつにつれて次第に自然淘汰され、実生のものも加わって、やがて再 びコナラークリ林となり、その構成種として生きていくものと考えられる。

ふつう、林の縁や伐採跡地にはよく蔓性植物(藤本)がみられることが多い。ここでは、フジが全域に生えている。林内に生えているフジはかなり長くのび、木にからみついて10m も15 m も登っていくが、伐採後のこの遺跡では蔓があまり伸長せず、やはり小塊状になっているのが特徴的だ。

次に、下生植物としては、ヒカゲスゲやタガネソウ、シラヤマギクが比較的多く、タチツボスミレ、タカトウダイなどが全域に点々とみられる。

また、帰化植物のオオアレチノギクやヒメジョオン、オオアワダチソウ、アメリカセンダングサなどは、遺跡の周辺部に小群落をつくっている他は、かなり少ない。量も、種類もである。筆者が調べた大鷹沢全域の帰化率(そこに生えている全種類のうち、帰化植物の種類が占める割合)は10.4%、この遺跡全域では5.8%となる。さらに、遺跡の中央部にあたる5つの調査区内では、69種類中わずか2.9%の2種類であり、著しく少ないことがわかる。

このことは、このコナラークリ林が、20~30年毎に伐採される他に人手があまり加わっていなかったことを意味している。従って、自然度の高い植生だったと言うことができる。

しかし、第5調査区(写真9)の周辺は、帰化植物の有無、多少では判断できないようだ。 ここでは、ススキやヨモギが優占する大型草本植物群落がみられる。木の種類が少なく、アズ マネザサの他はヌルデやコマツナギなど、わずか数種生えているだけだ。また、下草もミツバ フウロ以外はほとんど目につかず、ガガイモやヒルガオの蔓性植物がみられる。

この調査区は、高圧送電線の塔に近い所なので、塔の管理のため少なくとも年に1回は刈

組 成 表

	3m +	1 0 0 4 5						
	調査区	1 2 3 4 5	40 A 75		ヒカゲスゲ	+ 2	4	1602
	調査面積(m²)	4 4 4 4 4	総合優		タガネソウ	+ 1	1	202
和	最大の高さ(cm)	130 100 200 150 200	占 度		シラヤマギク	+ 1	1	202
名	出現種類数	24 27 19 24 13			タチツボスミレ	1	++	104
	アズマネザサ	5 5 5 3 4	7250		タカトウダイ	++	+	6
	ヌルデ	1 5 +	1852		ススキ	i .	1 5	1850
	コナラ	3 + 3	1502		ヒメカンスゲ	++	- 0	4
	ウメモドキ		202		ツリガネニンジン	+	+	4
木	ウワミズザクラ	3 +	752	草	ニガナ		+	4
	ツクシハギ	++	4		ヤブヘビイチゴ	+	+	4
	サンショウ	+ +	4		コナスビ		' +	4
	クリ	+ + +	4		ヨモギ	'	4	1250
	/ º マルバアオダモ		4		ワレモコウ	1	-	100
	エゴノキ	2	350		ミツバフウロ	-	1	100
		1	100		トウヒレン属の一種	+	1	2
	ワタゲカマツカ	1	2		オカトラノオ			2
	イタヤカエデ	' +	2		コバギボウシ	+		2
	ノイバラ	+	2		※オオアレチノギク			2
	ヤマツツジ	+	2		ヤクシソウ	-		2
	カヤ	+	2		ヤマハッカ			2
本	^	+	2		ケチヂミザサ			2
1 /4	ココスシンコ	+	2		アキノキリンソウ			2
	ヤマウルシ	+	2		イヌヨモギ	+		2
	コマツナギ	' +	2		アオイスミレ	+		2
			2		ノダケ	+		2
	フジ	1 3 2 3	1950		キンミズヒキ	+		2
	ミツバアケビ	++++	8		タニソバ		+	2
藤	コバノカモメズル	+ +	4		_ ^ ^ / _ / オトギリソウ		+	2
) Jak	クズ	++	- 4	本	※ヒメジョオン		+	2
	アケビ	+ ' '	2	1	ホタルブクロ		' +	2
	ノブドウ	' +	2		アキカラマツ		+	2
	スズメウリ	+	2		イブキボウフウ		+	2
	ウスバヤブマメ	+	2		ヒヨドリバナ		+-	2
本	クマヤナギ	+	2		オケラ		+	2
14	ガガイモ	+	2		ネコハギ		+	2
	ヘクソカズラ	+	2		ドクダミ		+	2
	ヒルガオ	+	2		ゲンノショウコ		+	2
	L 70 70 A				, , , , , , ,			٢

総合優占度―<mark>評価値の総和</mark>×100

り払われていよう。また、塔を建設する際に、表土が一度壊されているわけだから、木本植物の生育には悪環境となり、成長のはやい大型草本や蔓草の繁茂する植生ができたものと思われる。組成表でもわかるように、他の4調査区とは明らかに区別がつき、最も人間の影響を受けていることがわかる。

3 分布上貴重な植物

ヤブラン (写真26) Liriope platyphylla Wang et Tang (ユリ科)

よくやぶに生えて葉がランに似ているところから"薮蘭"という名がある。しかし、ラン科ではなくユリ科である。属名のLiriopeは、ギリシャ神話におけるナルキスソスの母、森の精リリオーペに因んだものだ。

本州・四国・九州、台湾に分布し、県内でも南部では各地に生えている。しかし県北では 少なく、岩手県境の唐桑町あたりが太平洋側の北限と思われる。日本海側では、秋田県まで 分布する。

この遺跡では、南側に比較的多く、初夏から夏にかけて淡紫色の花を穂状につけていた。 よく花壇などに植えられているフクリンヤブランは、これの栽培品種である。

カラスザンショウ (写真21) Zanthoxylum ailanthoides Sied. et Zucc. (ミカン科)

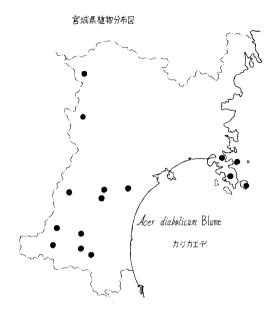
これはもともと落葉高木なのだが、県内では、まだ成木をみたことがない。大和町若畑の **淮** カラスザンショウも、この遺跡のそれも、高さ数cmから20cmの雅樹だった。

この木の果実を食べるためにカラスが集まってくるので "鴉山椒" の名があるが、そういった光景は、関東から南にいかないとみられないだろう。おそらく、鴉の仕業で宮城県にも分布が広げられたものと考えられる。岩手県では、まだ知られていないが、日本海側では青森県まで北上している。

秩父では"やまどり"、伊豆半島では"げたばら"と呼ばれ、昔は下駄材に利用された。角田地方にいくとシンジュ(ニワウルシ属 Ailanthus)という木が道端などで目につく。その葉とカラスザンショウの葉がよく似ているので、エングラーは、種名に ailanthoides と名づけた。

カジカエデ (写真22) Acer diabolicum Bume (カエデ科)

青根温泉から峨々温泉への途中の道路沿いに、高さが15mもあろうと思われるカジカエデがある。こんなに大きいのは、おそらく本県一と思われる。普通県内でみられるのは、せいぜい数mどまりなのだ。分布図でわかるように、蔵王山麓や仙台周辺に多く、仙台平野をと



んで牡鹿半島でも各地に生えている。栗駒山系 の鬼首周辺が北限と思われる。

本州・四国・九州の山地に生える日本特産の カエデで、葉の形がカジノキに似ているところ から"梶楓"の名がある。

遺跡では、わずか1本しか確認していないが、 宮城県北限植物の一つとして、貴重である。

オトコヨウゾメ (写真23) Viburnum

phlebotrichum Thund. (スイカズラ科)

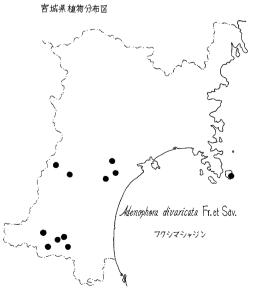
白石周辺や仙南地方のコナラークリ林に普通にみられるガマズミ属の落葉低木である。遺跡では点々とみられるが、萌芽のため、ミヤマズミなどと混同しやすい。ガマズミの仲間は実を食べられるものもあるが、オトコョウゾメの実は、やや扁平でやせているため食用としない。乾いた葉が黒くなることや、花が垂れ下がることでガマズミと区別できる。

本種も日本特産種で、東北地方の太平洋側以 南の本州・四国・九州に分布し、北限は、昭和 39年7月に相馬寛吉・大橋広好氏によって採集 された唐桑町御崎岬と思われる。

フクシマシャジン (写真33) Adenophora

divaricata Fr. et Sav. (キキョウ科)

朝鮮、中国及び日本に分布するツリガネニンジン属の植物で、わが国では、本州中北部に



分布が限られている。この遺跡では中部に非常に多く生えているが、南部にはツリガネニンジンが生え、住み分けしていることは興味深い。

本種は、古くはツルシャジンやツルギキョウと呼ばれていたものである。その後、松村任 三氏が東京理科大学所蔵標本(福島県産?)に"フクシマシャジン"と手記しておいたもの をもとに、牧野富太郎氏が1898年、「日本産つりがねにんじん属の数種」の中でとりあげたの が、この和名のはじめである。

外観はツリガネニンジンとよく似ているが、「がく裂片が開出し、ひ針形で全縁」な点で区別できる。従って、開花前の個体では区別が困難なためか、県内の産地はあまり知られていなかった。最近になって、分布図のように各地に生えていることが明らかになった。

その他北限に近い植物

として、コウヤザサ(写真24) Brachyelytrum japonicum Hack. — 北限は岩手県宮古・盛岡付近、イヌシデ(写真12) Carpinus tschonoskii Maxim. — 北限は岩手県宮古付近、ウラジロノキ(写真15) Sorbus japonica (Decne.) Hedl. — 北限は岩手県野田付近、コマッナギ(写真18) Indigefera pseudo-tinctoria Matsum. — 北限は、太平洋側は岩手県盛岡付近、日本海側は秋田県などがみられる。

4 遺跡に産する高等植物目録

- 所産植物は、59科156種3変・品種を数えた。そのほとんどは標本として保存してある。
- 学名及び科・種の配列は、主として大井次三郎著「日本植物誌」によった。
- 目録中※印を付したものは、帰化植物(逸出も含む)である。

シダ植物 PTERIDOPHYTA

ワラビ科 Pteridaceae

1 ワラビ Pteridium aquilinum (L.) Kuhn var. latiusculum (Desv.) Underw.

種子植物 SPERMATOPHYTA 裸子植物 GYMNOSPERMAE

イチイ科 Taxaceae

2 カヤ Torreya nucifera (L.) Sied. et Zucc.

マツ科 Pinaceae

3 アカマツ Pinus densiflora Sieb. et Zucc.

被子植物 ANGIOSPERMAE

単子葉植物 MONOCOTYLEDONEAE

イネ科 Gramineae

- 4 アズマネザサ Arundinaria chino (Fr. et Sav.) Makino
- 5 ヤマヌカボ Agrostis clavata Trin.

ヌカボ var. nukabo Ohwi

6 コウヤザサ Brachyelytrum japonicum Hack.

写真24

7※カモガヤ Dactylis glomerata L.

- 8 オオエノコログサ Setaria x pycnocoma Henr. ex Nakai
- 9 メヒシバ Digitaria adscendens (H.B.K.) Henr.
- 10 ナルコビエ Eriochloa villosa (Thunb.) Kunth
- 11 ケチヂミザサ Oplismenus undulatifolius (Ard.) Roem. et Schult.
- 12 ススキ Miscanthus sinensis Anderss.

カヤツリグサ科 Cyperaceae

- 13 ヒメカンスゲ Carex conica Boott
- 14 ヒカゲスゲ C. lanceolata Boott
- 15 タガネソウ C. siderosticta Hance

ツユクサ科 Commelinaceae

16 ツユクサ Commelina communis L.

ユリ科 Liliaceae

17 アオヤギソウ Veratrum maackii Regel

var. pærviflorum (Miq.) Hara et Mizushima

写真25

- 18 コバギボウシ Hosta albo-marginata (Hook.) Ohwi
- 19 ヤマユリ Lilium auratum Lindl.
- 20 チゴユリ Disporum smilacinum A. Gray
- 21 ヤブラン Liriope platyphylla Wang et Tang

写真26

- 22 オオバジャノヒゲ Ophiopogon planiscapus Nakai
- 23 ジャノヒゲ O. japonicus (L. fil.) Ker-Gawl.
- 24 サルトリイバラ Smilax china L.

ヤマノイモ科 Dioscoreaceae

25 オニドコロ Dioscorea tokoro Makino

ラン科 Orchidaceae

26 カキラン Epipactis thunbergii A. Gray

写真27

双子葉植物 DICOTYLEDONAE 離弁花類 CHORIPETALAE

ドクダミ科 Saururaceae

27 ドクダミ Houttuynia cordata Thunb.

ヤナギ科 Salicaceae

28 キツネヤナギ Salix vulpina Anders.

クルミ科 Juglandaceae

29 オニグルミ Juglans ailanthifolia Carr.

カバノキ科 Betulaceae

30	イヌシデ	Carpinus tschonoskii Maxim.	写真12
31	アカシデ	C. laxiflora (Sieb. et Zucc.) Blume	写真11
32	ハシバミ	Corylus heterophylla Fischer var. thunbergii Blume	写真17

ブナ科 Fagaceae

33	コナラ Quercus serrata	Thunb.	写真13
34	クリ Castanea crenata S	ieb. et Zucc.	

ニレ科 Ulmaceae

35 ケヤキ Zelkova serrata (Thunb.) Makino

36 エゾエノキ Celtis jessoensis Koidz.

タデ科 Polygonaceae

- 37 タデ属の一種 Polygonum sp.
- 38 タニソバ P. nepalense Meisn.

ヒユ科 Amaranthaceae

39 ヒナタイノコズチ Achyranthes fauriei Lev. et Van.

ナデシコ科 Caryophyllaceae

- 40 ウシハコベ Stellaria aquatica (L.) Scop.
- 41 コハコベ S. media (L.) Villars
- 42 カワラナデシコ Dianthus superbus L. var. longicalycinus (Maxim.) Williams

キンポウゲ科 Ranunculaceae

- 43 センニンソウ属の一種 Clematis sp.
- 44 アキカラマツ Thalictrum minus L. var. hypoleucum (Sieb. et Zucc.) Miq.

アケビ科 Lardizabalaceae

- 45 ミツバアケビ Akebia trifoliata (Thunb.) Koidz.
- 46 アケビ A. quinata (Thunb.) Decaisne

メギ科 Berberidaceae

47 イカリソウ Epimedium grandiflorum Morr. var. thunbergianum (Miq.) Nakai

モクレン科 Magnoliaceae

48 ホオノキ Magnolia obovata Thunb.

写真16

ユキノシタ科 Saxifragaceae

49 ウツギ Deutzia crenata Sieb. et Zucc.

バラ科 Rosaceae

50 コゴメウツギ Stephanandra incisa (Thunb.) Zabel

- 51 ヤブヘビイチゴ Duchesnea indica (Andr.) Focke
- 52 ナワシロイチゴ Rubus parvifolius L.
- 53 ワレモコウ Sanguisorba officinalis L.
- 54 キンミズヒキ Agrimonia pilosa Ledeb.
- 55 ノイバラ Rosa multiflora Thunb.
- 56 カスミザクラ Prunus verecunda (Koidz.) Koehne
- 57 ウワミズザクラ P. grayana Maxim.
- 58 ワタゲカマツカ Pourthiaea villosa (Thunb.) Decne.
- 59 ウラジロノキ Sorbus japonica (Decne.) Hedl.

写真15

マメ科 Leguminosae

- 60 ネムノキ Albizia julibrissin Durazz.
- 61 ツクシハギ Lespedeza homoloba Nakai
- 62 ネコハギ L. pilosa (Thunb.) Sieb. et Zucc.
- 63 ヤハズソウ Kummerovia striata (Thunb.) Schindler
- 64 クズ Pueraria lobata (Willd.) Ohwi
- 65 ウスバヤブマメ Amphicarpaea edgeworthii Benth. var. trisperma (Miq.) Ohwi
- 66 コマツナギ Indigofera pseudo-tinctoria Matsum.

写真18

67 フジ Wisteria floribunda (Willd.) DC.

フウロソウ科 Geraniaceae

- 68 ゲンノショウコ Geranium thunbergii Sieb. et Zucc.
- 69 ミツバフウロ G. wilfordii Maxim.

ミカン科 Rutaceae

- 70 サンショウ Zanthoxylum piperitum (L.) DC.
- 71 カラスザンショウ Z. ailanthoides Sieb. et Zucc.

写真21

ヒメハギ科 Polygalaceae

72 ヒメハギ Polygala japonica Houtt.

トウダイグサ科 Euphorbiaceae

73 タカトウダイ Euphorbia pekinensis Rupr.

ウルシ科 Anacarpdiaceae

74 ヤマウルシ Rhus trichocarpa Miq.

写真20

75 ヌルデ R. javanica L.

モチノキ科 Aquifoliaceae

76 アオハダ Ilex macropoba Miq.

77 ウメモドキ I. serrata Thunb.

ニシキギ科 Celastraceae

78 ニシキギ Euonymus alatus (Thunb.) Sieb.

コマユミ form. ciliatodentatus (Fr. et Sav.) Hiyama

79 ツリバナ E. oxyphyllus Miq.

カエデ科 Aceraceae

80 ヤマモミジ Acer palmatum Thunb. var. matsumurae (Koidz.) Makino

81 イタヤカエデ A. mono Maxim.

82 カジカエデ A. diadolicum Blume

写真22

クロウメモドキ科 Rhamnaceae

83 クマヤナギ Berchemia racemosa Sieb. et Zucc.

ブドウ科 Vitaceae

84 エビヅル Vitis ficifolia Bunge var. lobata (Regel) Nakai

85 ノブドウ Ampelopsis brevipedunculata (Maxim.) Trautv.

オトギリソウ科 Guttiferae

86 オトギリソウ Hypericum erectum Thunb.

写真31

スミレ科 Violaceae

- 87 アオイスミレ Viola hondoensis W. Becker et H. Boiss.
- 88 アカネスミレ V. phalacrocarpa Maxim.
- 89 タチツボスミレ V. grypoceras A. Gray

アカバナ科 Onagraceae

90 アカバナ Epilobium pyrricholophum Fr. et Sav.

ウコギ科 Araliaceae

- 91 タラノキ Aralia elata (Miq.) Seemann
- 92 ヤマウコギ Acanthopanax spinosus (L. fil.) Miq.

写真14

93 ハリギリ Kalopanax pictus (Thunb.) Nakai.

写真19

セリ科 Umbelliferae

- 94 ミツバ Cryptotaenia japonica Hassk.
- 95 カノツメソウ Spuriopimpinella calycina (Maxim.) Kitagawa

写真30

96 イブキボウフウ Seseli libanotis Koch var. japonica H. Boiss.

写真28

97 ノダケ Angelica decursiva (Miq.) Fr. et Sav.

合弁花類 GAMOPETALAE

イチヤクソウ科 Pyrolaceae

98 イチヤクソウ Pyrola japonica Klenze

ツツジ科 Ericaceae

- 99 ヤマツツジ Rhododendron kaempferi Planch.
- 100 レンゲツツジ R. japonicum (A. Gray) Suringer

サクラソウ科 Primulaceae

- 101 コナスビ Lysimachia japonica Thunb.
- 102 オカトラノオ L. clethroides Duby

エゴノキ科 Styracaceae

103 エゴノキ Styrax japonica Sieb. et Zucc.

モクセイ科 Oleaceae

- 104 イボタノキ Ligustrum obtusifolium Sieb. et Zucc.
- 105 マルバアオダモ Fraxinus sieboldiana Blume

リンドウ科 Gentianaceae

106 リンドウ Gentiana scabra Bunge var. buergeri (Miq.) Maxim.

ガガイモ科 Asclepiadaceae

- 107 ガガイモ Metaplexis japonica (Thund.) Makino
- 108 コバノカモメヅル Cynanchum sublanceolatum (Miq.) Matsum.

ヒルガオ科 Convolvulaceae

109 ヒルガオ Calystegia japonica Choisy.

ムラサキ科 Boraginaceae

110 ホタルカズラ Buglossoides zollingeri (DC.) Johnston

クマツヅラ科 Verbenaceae

111 ムラサキシキブ Callicarpa japonica Thunb.

写真10

シソ科 Labiatae

- 112 ウツボグサ Prunella vulgaris L. var. lilacina Nakai
- 113 イヌコウジュ Mosla punctulata (J.F. Gmel.) Nakai
- 114*** Perilla frutescens (L.) Britton var. crispa (Thunb.) Deane form. viridis (Makino) Makino
- 115 ヤマクルマバナ Clinopodium chinense (Benth.) O. Kuntze var. shibetchense (Lév.) Koidz.
- 116 ヤマハッカ Plectranthus inflexus (Thunb.) Vahl, ex Benth.

ナス科 Solanaceae

117* | Y | Lycopersicon esculentum Mill.

ハエドクソウ科 Phrymaceae

118 ナガバノハエドクソウ Phryma leptostachya L. var. asiatica Hara form. oblongifolia (Koidz.) Ohwi

オオバコ科 Plantaginaceae

119 オオバコ Plantago asiatica L.

アカネ科 Rubiaceae

120 ヘクソカズラ paederia scandens (Lour.) Merrill var. mairei (Lév.) Hara写真29

121 アカネ Rubia akane Nakai

スイカズラ科 Caprifoliaceae

122 ガマズミ Viburnum dilatatum Thunb.

123 ミヤマガマズミ V. wrightii Miq.

124 オトコヨウゾメ V. phlebotrichum Sieb. et Zucc.

写真23

125 ツクバネウツギ Aberia spathulata Sieb.et Zucc.

126 ヤマウグイスカグラ Lonicera gracilipes Miq.

キキョウ科 Campanulaceae

127 ツリガネニンジン Adenophora triphylla (Thunb.) A. DC.

var. japonica (Regel) Hara

写真34

シロバナツリガネニンジン form. leucantha Hara

写真33

128 フクシマシャジン A. divaricata Fr. et Sav.

129 ホタルブクロ Campanula punctata Lam.

ウリ科 Cucurbitaceae

130 スズメウリ Melothria japonica (Thunb.) Maxim.

蒋33

キク科 Compositae

- 131 ハハコグサ Gnaphalium affine D. Don.
- 132 サジガンクビソウ Carpesium glossophyllum Maxim.
- 133 ヒヨドリバナ Eupatorium chinense L. var. simplicifolium (Makino) Kitam. 写真35
- 134 アキノキリンソウ Solidago virga-aurea L. var. asiatica Nakai
- 135※オオアワダチソウ S. gigantea Ait. var. leiophylla Fern. 写真37
- 136 ユウガギク Kalimeris pinnatifida (Maxim.) Kitam.
- 137※ヒメジョオン Erigeron annuus (L.) Pers. 写真38
- 138※オオアレチノギク E. sumatrensis Retz. 写真40
- 139 シラヤマギク Aster scaber Thunb. 写真32
- 140※ダンドボロギク Erechitites hieracifolia (L.) Raf.
- 141※ノボロギク Senecio vulgaris L.
- 142 ヤブレガサ Syneilesis palmata (Thunb.) Maxim.
- 143 イヌヨモギ Artemisia keiskeana Miq. 写真36
- 144 ヨモギ A. princeps Pampan.
- 145 コメナモミ Siegesbeckia glabrescens (Makino) Makino
- 146※アメリカセンダングサ Bidens frondosa L.

写真39

- 147 オケラ Atractylodes japonica koidz., ex Kitam.
- 148 ノアザミ Cirsium japonicum DC.
- 149 トウヒレン属の一種 Saussurea sp.
- 150 タムラソウ Serratula coronata L. var. insularis (Iljin) Kitam.
- 151 ヤブタビラコ Lapsana humilis (Thunb.) Makino
- 152 イワニガナ Ixeris stolonifera A. Gray
- 153 ニガナ I. dentata (Thunb.) Nakai
- 154 アキノノゲシ Lactuca indica L. var. laciniata (O. Kuntze) Hara
- 155 オニノゲシ Sonchus asper (L.) Hill
- 156 ヤクシソウ Youngia denticulata (Houtt.) Kitam.

主な参考文献

○ 青森営林局(1935):宮城県植物目録

○ 岩手植物の会(1970):岩手県植物誌

○ 上野雄規(1974):大鷹沢の植物誌

○ 上野雄規(1975):宮城県におけるフクシマシャジンの分布

○ 菅原亀悦(1969):宮城県の植生の概観

○ 菅原亀悦(1973):仙台市太白山・佐保山地域の植生

○ 望月陸夫(1972):秋田県植物目録

○ 結城嘉美 (1972) : 山形県の植物誌

○ 吉岡邦二 (1952) :仙台市附近モミーイヌブナ林地帯の森林

○ 大井次三郎(1975):日本植物誌

5 考察

- 1 遺跡の植生は、コナラークリ林(二次林)を伐採した後に成立した、アズマネザサーフジ 群落が主体をなしている。
- 2 木本植物は、ほとんどが萌芽で、束状や放射状あるいは椀状を呈し、フジは蔓が伸長せず 小塊状をなすなど、伐採跡地特有の形態を示している。
- 3 帰化率が5.8%と低く、特に遺跡の中央部は2.9%で、丘陵地としては自然度のやや高い 植生である。
- 4 遺跡に産する高等植物は59科156種3変品種を数え、中には、ヤブラン、カラスザンショウ、カジカエデ、オトコョウゾメ、フクシマシャジンなど、分布上貴重な植物が自生している。

φ. . .



写真 | 遺跡の南半分

写真 2 遺跡の北半分

写真3 遺跡に隣接して残っているコナラ林分







写真4 コナラ林分の林床



写真 5 第 | 調査区



写真6 第2調査区



写真7 第3調査区



写真8 第4調査区



写真 9 第 5 調査区



写真10 ムラサキシキブ



写真I アカシデ



写真12 イヌシデ

写真13 コナラ

写真14 ヤマウコギ





写真15 ウラジロノキ

写真16 ホオノキ





写真18 コマツナギ



写真19 ハリギリ



写真20 ヤマウルシ



写真21 カラスザンショウ

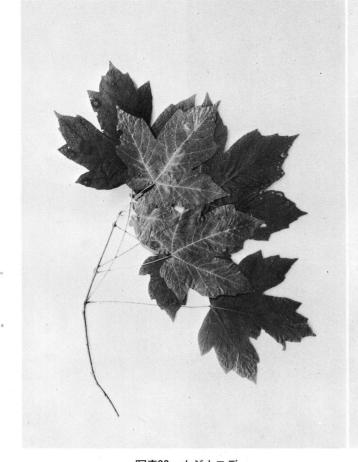
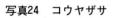


写真22 カジカエデ



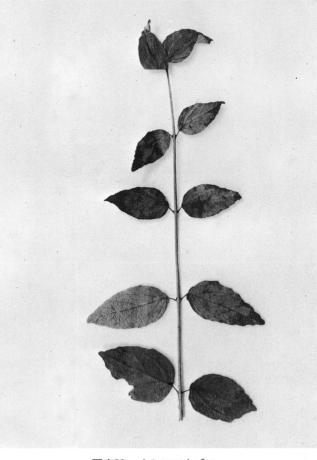


写真23 オトコヨウゾメ

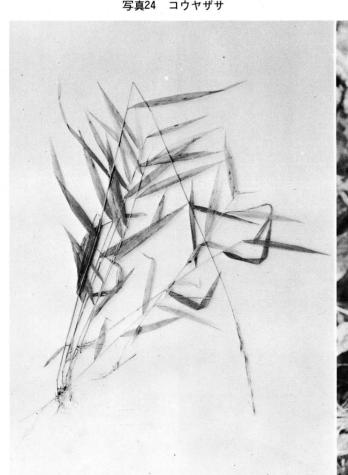






写真26 ヤブラン



左写真27 カキラン

右写真28 イブキボウ フウ



写真29 ヘクソカズラ

写真30 カノツメソウ



写真31 オトギリソウ



左写真32 シラヤマギク

右写真33 フクシマシャ ジン



写真34 ツリガネニンジン 写真36 イヌヨモギ



写真35 ヒヨドリバナ 写真37 オオアワダチソウ (帰化植物)







写真38 ヒメジョオン (帰化植物)



写真39 アメリカセンダングサ (帰化植物)の群落



写真40 オオアレチノギクー ヒメジョオンの帰化 植物群落

Ⅳ 調査実施要項と調査日誌

1. 実施要項

遺 跡 名 三部山遺跡

遺跡所在地 白石市福岡字長袋三部山

調査の目的 宅地造成のため

調査予定地の面積 2,966m²

調 查期 間 昭和51年8月15日~昭和51年8月31日

調査主体者 白石市教育委員会

調査担当者 白石市文化財保護委員 中橋彰吾

調 查 指 導 宮城県教育庁文化財保護課調查第 2 係長 斎藤良治

調査員白石市文化財保護委員高橋辰男

蔵 王 町 宮 宮地祐一

福島大学 小川淳一

東 北 大 学 阿子島香

" 佐川正敏

調査補助員 東 北 大 学 相原淳一

" 川合 安

東北薬科大学
菊地挽夫

福島大学北爪均

調查参加者 白石高等学校 相原健二、遠藤由一、鈴木知夫、松野 茂、太田光雄、

浮田 聡、三田村信、山岸秀次、吉田郁夫、吉野 隆、

平間和正

名取高等学校 川合 雄、向山高等学校 吉田雅之

調査協力者 白石高等学校教諭 居坂 知己

白石第一小学校教諭 上野 雄規

白石植物愛好会 佐々木敏雄

白石第一小学校教諭 駒板 典義

白石市荒屋敷 遠藤 盛勝

地元協力者 成沢俊博、大槻正行、藤本邦夫、日下義英、佐久間高一郎、高橋 孝、

阿部清一、平間圭二、小野恒敬、小野則夫、高橋新太郎、大宮重治、

遠藤良吉、近江養七、高橋昭夫、遠藤勝男、高野英治、大宮玲子、

小野富夫、高野 伝、追木重子、高野たつえ、日下英雄、佐久間良子、 高野光雄、黒沢よし子、新田惣一郎、佐久間かつ子、高野三男、 佐久間栄子、大槻信一、佐久間一夫、金井和子

在八间本 1、八城间 、 在八间

調查連絡事務担当 白石市教育委員会

太斎 享

小野壱産業KK

金井勝三

2. 調査日誌

8月17日 曇り一時雨

調查員3名 補助員4名 作業員10名

テント設営、グリッド設定ののち、BA32、BA36、BA38、BA41、BA43グリッドの発掘開始。C区の草刈りも行なう。

8月18日 曇り時々晴れ

調查員3名 補助員4名 作業員17名

BB35、BB37、BB39、BC38、BC41、BD40、BE41グリッドの発掘開始。

8月19日 快晴

調査員4名 補助員4名 作業員15名

BA32、BA41、BA43グリッドは3層(地山)まで完掘**り**し終了する。BB42、BD42グリッドを発掘開始。

8月20日 晴れ、にわか雨

調查員5名 補助員4名 作業員10名

BE27、BE30グリッドの発掘開始。BB39グリッドを精査グリッドとする。BB35、BB42グリッドは完掘 🗸。

8月21日 晴れ

調查員5名 補助員2名 作業員9名

斎藤良治氏、視察のため来白。御指導を受ける。BE 24、BH 24グリッドの発掘開始。BE 30グリッド西北隅に 2 層の上面を切っている性格不明の赤褐色粘土層を検出。

8月23日 晴れ 猛暑

調査員5名 補助員2名 作業員15名

居坂知己氏調査に参加。BA36、BA38、BB37、BE24、BE27グリッドは完掘。C区にトレンチ4本を設定、発掘を開始する。完掘りしたグリッドの西壁、南壁セクション図作成を開始する。

8月25日 曇り、にわか雨

調查員5名 補助員2名 作業員21名

BF30、BH13、BH16、BH21、BH27、BJ28、AA33、AB36グリッドの発掘開始。AA33グリッドを精査グリッドとする。BC38、BC41、BD40、BD42、BE41、BH13、BH24、BH27、BJ28グリッドは完掘り。C区は4トレンチとも完掘りし、セクション図を作成する。

8月27日 晴れ時々曇り

調查員4名 補助員2名 作業員9名

BG 29グリッドを発掘。赤褐色粘土層はBE 30グリッドからBF 30、BG 29グリッドにかけて堆積している。約半数のグリッドのセクション図作成を終わる。

8月29日 晴れ

調查員4名 補助員2名 作業員7名

BB39、AA33グリッドは引き続き精査を続ける。

8月30日 曇り一時雨

調査員4名 補助員2名 作業員5名

BB39、BH16、BH21、AB36グリッドは完掘り。各グリッドのセクション図作成を続ける。 9月1日 曇り時々晴れ

調査員2名 補助員1名 作業員5名

BE30、BF30、BG29グリッドにひろがる赤褐色粘土層の平面図作成後、BF30の西壁と南壁沿いにトレンチを入れ、後世の盛り土であることを確認する。AA33グリッドを除いて各グリッドとも完了。撤収を行なう。

9月2日 晴れのち曇り 調査員2名

AA33グリッドを完掘りし、調査は終了した。



調査のある日に

Ⅴ 調査の方法と概要

調査対象区域のうち、表面観察によって遺物が採集された地点を中心に南北93m、東西36mの範囲に3m×3mのグリッドを設定し、基準杭より東側をA区西側をB区とした。

北斜面のC 区については $2 \text{ m} \times 10 \text{ m}$ のトレンチを 4 本設定し、第 1 、第 2 、第 3 、第 4 トレンチとした。

調査対象区域2,966㎡のうち、A 区18㎡、B 区225㎡、C 区80㎡計323㎡を発掘した。(第3図) 遺物は原則としてすべてレベルをとり、1.5m×1.5m (四分の一グリッド)を単位として取り上げた。

調査区のA区、B区の現状は雑木林で南北に細長く、全体的な地形は中央部がやや高まり、 北に向って傾斜しており、南と西の方向にもいくぶん傾斜をみせる地形である。

C 区はA・B 区に続く北側の部分で、三部山遺跡全体からみれば北斜面の西の部分にあたり、 東西に細長く西に強い傾斜をみせる地形で、現状は畑地である。

A・B区はほとんど全グリッドに、伐採後の大小の根株が残存しており、できるだけ根株を さけながら、B区中央部から調査を開始した。折からの酷暑とともに、根株へのアタックは非 常に苦しい作業の連続であった。

A・B区の層序は単純な地層で、基本的にはほとんど変らず、2層で基盤層に達し、各グリッドとも遺物の出土は少なく、フレイク・チップを主として、石器、土器片が若干出土するのみで、遺構および明瞭な遺物包含層は確認されなかった。

BF30グリッド調査中、赤褐色粘土質土層が第1層と第2層の間にレンズ状に挿入しているのが検出され、隣接するBE30・BG29グリッドを精査した結果、挿入土層はやや楕円形状に堆積し、その広がりは数グリッドに及んでいる。(第5図) この赤褐色土層より、江戸時代末期と考えられる陶器片が出土した。これは堆積の時代を明示するものであろう。

A 区B 区の層序は、西壁南壁の計測によると、次の通りである。(第18図・第19図)

- 第1層 暗褐色シルト層 表土にあたる部分で、草木の根が多量に混入し、ボサボサした粘 性の少ない土層である。(15cm~30cm)
- 第2層 明褐色粘土質シルト層 草木の根が混入しているが、第1層よりも少なく細い。土質は粘性があり、やや堅くしまっているが、木根の周囲は幾分ボサボサする。この層の下部でいくぶん色調が明るくなり、次層との明瞭な色別ができなかったグリッドもある。(5cm~25cm)
- 第3層 黄褐色粘土層 第2層より粘性が強く、水分を含むとベトつきやすい。輝石安山岩 のやや角のとれた礫 (径3cm~10cm) を含む基盤層である。

C 区の 4 本の各トレンチの層序も、ほとんど同じで単純であった。遺物は全く出土しない。第 2 トレンチと第 4 トレンチの西端部に、第 1 層と第 2 層の間に黒色土層(約 10cm)が検出され、第 4 トレンチを拡張精査した結果、黒色土層は幅約 1 m程で、南北に走っており、畑地間の境界の窪地に、汚染された土が流入堆積したと考えられる。遺物は発見されない。

C区の層序は次の通りである。(第19図)

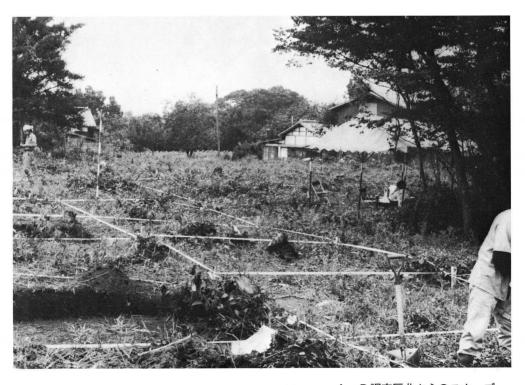
第1層 暗褐色土層 耕土で土質がやや粗く、草木の根が混入している。

第2層 赤褐色土層 やや赤味をおびた粘質のしまった土層

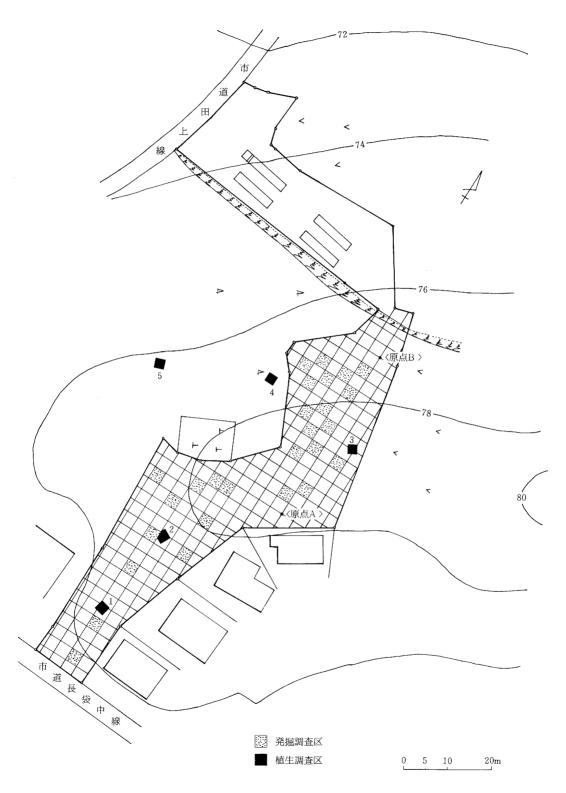
A・B調査区とも遺物の出土は少なかったが、その出土状態を詳細に把握するために、比較 的遺物の出土の多い地点に2区の精査グリッドを設定し、全遺物の水平、垂直の分布状況を実 測した。(第6図、第7図)

両グリッドとも、チップが最も多く、土器、石器の出土状態はまとまりをもたず、グリッド 全域に不整に散布している。層位的にもAA33グリッドは第2層に集中してみられるが、遺物 の包含層としては明瞭に把握されなかった。(地表約10cm程は、表土剝離の際除去されたため、 遺物は記録されない)

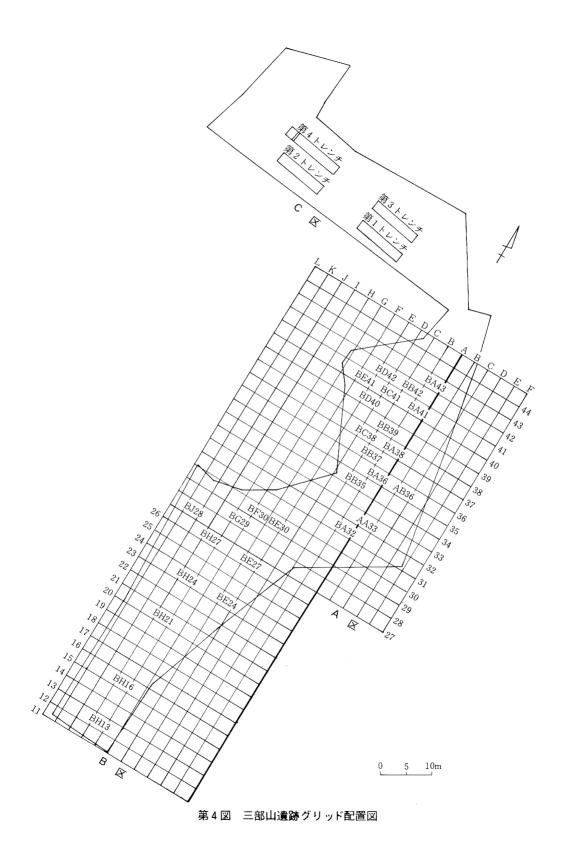
第2層下部には、木炭および焼土の細片がブロック状に検出されたが、堆積はきわめて薄く 不整であり、生活面としては確認できなかった。

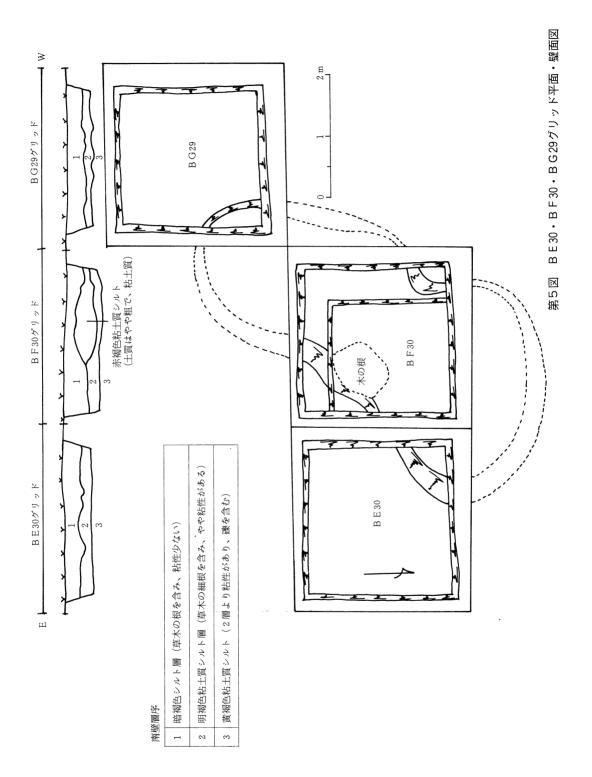


A・B調査区北からのスナップ

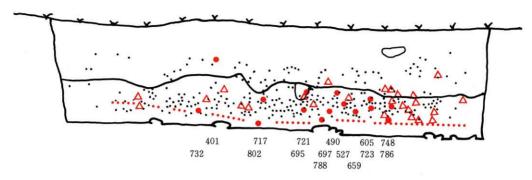


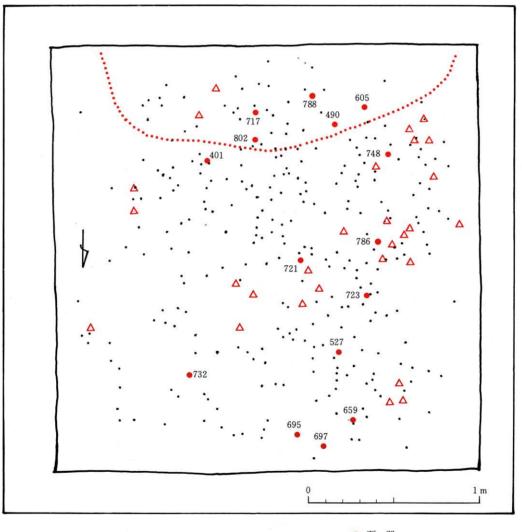
第3図 三部山遺跡地形図



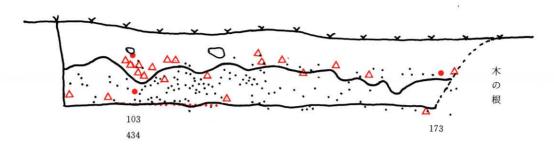


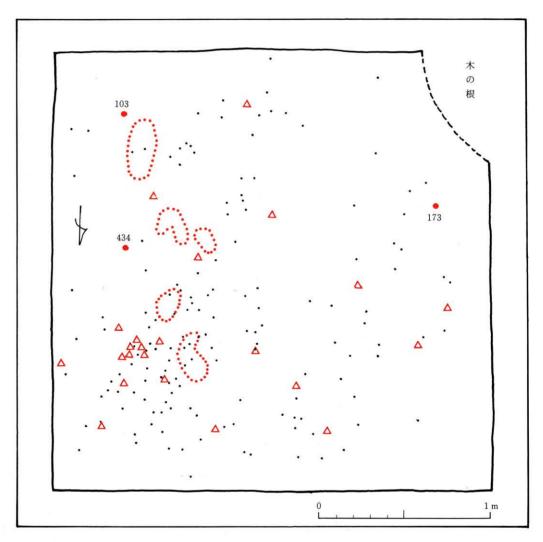
AA33グリッド出土フレイク・チップの一部





第6図 AA33グリッド遺物垂直・水平分布図





石 器 土 器 ・・・ 木炭・焼土散布区域 ・・ フレイク・チップ

第7図 BB39グリッド遺物垂直・水平分布図

Ⅱ出土遺物

1. 土 器

三部山遺跡の調査によって、数量的にいえば105点の土器片を採集した。しかし、これらの 土器片は細片が多く、器形の全体を知るものはなく、すべては体部破片である。全体的に脆く 器面は磨滅していたり、ひび割れの状態で剝落しやすい。文様も不明なものがほとんどで、観 察にさえ困難なものが多く、資料として使用できたものは少なかった。

グリッド別の土器片の出土量は次の通りである。

グリッド	層序	数量	資料番号、その他
BF 30	1	2	27、28 (2片共陶器)
B E 30	1 ~ 2	8	13、15
B A 32	2	5	10、11、16
A A 33	2	25	1、2、12、14、17、18、23、24、25、木炭・焼土検出
B A 36	2	4	26
A B 36	1 ~ 2	9	19、21、木炭検出
B B 37	1 ~ 2	12	5, 6, 9
B C 38	1 ~ 2	3	3
B B 39	1 ~ 2	24	7、22、木炭・焼土検出
B D 40	1	1	
B E 41	1	7	4
B C 41	2	2	
B A 41	2	2	8
B A 43	1	1	20

※ 資料番号は図版土器・拓影土器と同一番号である。土器の出土層序は第1層下部から 第2層にかけてであるが、全体的には第2層出土が多い。

沈線文土器(1、2)

1 胎土は微砂質粘土で、細砂を含み焼成は軟質で脆い。繊維はみられず、色調は淡褐色で、 器厚は 6 mm程である。

文様は浅く横に一条と、斜めに短い沈線が付されている。

2 胎土は1とほぼ同じようで、焼成は良好で堅い。繊維は含まず、文様は爪形状の浅い沈線が付されている。

縄文条痕土器 (3、4)

器外面が縄文で、器内面に条痕をもつ土器である。

3. 胎土は微砂質粘土で、繊維と細砂、粗砂を含み、焼成は軟質で吸水性は強い。a、b面ともひび割れしており、非常に脆く、剝落しやすい。

a 面は淡褐色で、縄文は単節の斜縄文で粗大である。b 面は暗褐色で凹凸があり、条痕が付されている。器厚は 9 mm程である。

4 は a 面に縄文がみられるが、 b 面は磨滅して文様は不明であるが、胎土、焼成からみて 条痕か擦痕が付されていたと考えられる。

羽状縄文土器 (5、6、7、8、9、10)

胎土に繊維を含み、粗大な結束のない羽状の縄文 $\left\{ egin{aligned} \operatorname{LR} & \operatorname{R} & \operatorname{N} & \operatorname{N} & \operatorname{R} & \operatorname{N} & \operatorname{N} & \operatorname{R} & \operatorname{R} & \operatorname{N} & \operatorname{R} &$

5. 胎土は繊維を含み、微砂質粘土で、細砂、粗砂をかなり含む。なかには $2 \sim 3 \, \text{mm}$ の礫もみられる。

a 面はb 面よりも粗砂や礫の混入量がすくない。b 面は凹凸が激しく、かすかに調整の擦痕様のものがみられる。

色調はa 面は赤褐色をし、b 面は暗褐色で、断面の色調は明瞭な縞状を呈している。 焼成はやや不良で、器厚は $9 \, \mathrm{mm}$ 程である。

6. 胎土は細砂質粘土で、粗砂をかなり含み、 $2 \sim 3 \, \text{mm}$ の礫もみられる。 $b \, \text{面にかすかに擦痕}$ 様のものがみられ、繊維の含入量も多い。繊維の方向は擦痕の方向に一致している。

色調はa 面が茶褐色をなし、b 面には黒褐色もまじる。断面の色調は漸変する。 焼成は良好で、器厚は11mm程である。

7. 胎土は微砂質粘土で、細砂、粗砂を含み、繊維はやや多く、部分的に繊維巣がみられる。

b 面は凹凸があり、繊維含入痕が擦痕状を呈している。

色調はa 面が赤褐色でb 面はいくぶん黄褐色に近く、断面の色調は漸変する。 焼成は良好で、器厚は10mm程である。

9. 胎土は微砂質粘土で、粗砂をやや含み、a 面に 5~6mm程の礫がみられる。 繊維はやや多く、断面の中心部に繊維巣がみられ、明瞭なサンドイッチ状の縞構造をなす。 b 面にはかすかに調整擦痕がみられる。

色調はa・b 面共ほぼ同じような黄褐色である。焼成は不良、器厚は 8.5 mm程である。

10. 胎土は微砂質粘土で、細砂、粗砂を含むが、b 面にはみられず、調整土の使用が考えられる。

繊維の混入が少なく、かすかに擦痕がみられ、繊維の含入痕は擦痕と同方向である。 色調はa、b 面がほぼ同色の茶褐色で、断面の中心はやや黒ずむが、色調は漸変するもの である。

焼成は良好で、器厚は11mm程である。

縄文土器(11)

11 粗大な単節の斜縄文で、胎土は微砂質粘土で、細砂、粗砂を含む。繊維は全く含まず、色調はa面は茶褐色、b面はややうすい灰褐色で、断面の色調は漸変する。

焼成は良好で、器厚は9mm程である。

薄手無文土器 (12~19)

胎土は微砂質粘土で、細砂が混入し、かすかに調整の擦痕のみえるものもあるが、a、b面ともほとんどがひび割れして、非常に脆くなっている。繊維を多く含み、断面に繊維巣がみられる。

色調は赤褐色や黄褐色で、断面の中心は黒褐色で、明瞭な縞状を呈するものが多い。 焼成は不良で、器厚は4~5mm程の薄手の無文土器である。

厚手無文土器 (20~26)

胎土は微砂質粘土で、細砂、粗砂が混入し、少量の繊維を含むものと、検出不能のものが ある。

色調は黄褐色(20、21、23、25)赤褐色(22、24)のものがあり、焼成はやや不良である。 器厚は $7\sim12$ mm程の厚手の無文土器である。

陶器 (27、28)

27、28とも、高台を有する底部のみで、全体の器形を知るものはない。釉はやや青味をおびたなまと釉がかけられている。

注

土器の胎土の粒径区分は日本農学会法によった。

堆積土の粒径区分については、一般的には国際土壌学会法(Atterberg)が用いられているが、 三部山遺跡出土の土器の胎土の区分には、粒径のスケールの幅がせまく、粘土のスケールの幅の 広い日本農学会法によるのが適当と考え、この区分を使用した。

構成粒子は礫、粗砂、細砂、微砂、粘土の区分にしたがったが、これらのうち計測できる粒子はごくわずかで、実際にはほとんど不可能に近い。そこで一応の目安として、砕いてみてサラサラしたものを細砂質粘土、粉状またはほこり状となるものを微砂質粘土とした。

	2	0.2	5 ^{0.2} 0.	0.0	⁾² 0.	01 0.0	002			
国際法	石	粗砂	新	砂	伊	改砂	*	档	土.	mm
農学会法	礫	粗砂	細砂	微矿	少		粘	土		

昭37・菅野一郎編・「日本の土壌型」より

2 石器

石器は44点出土した。石鏃、石匙、石錐、尖頭器、石篦、およびいわゆる不定形石器である。 多数をしめるのは不定形石器であるが、尖った部分を持つもの、厚い刃部を持つもの、薄い刃 部を持つもの、およびそれらの組合せがあり、単純ではない。

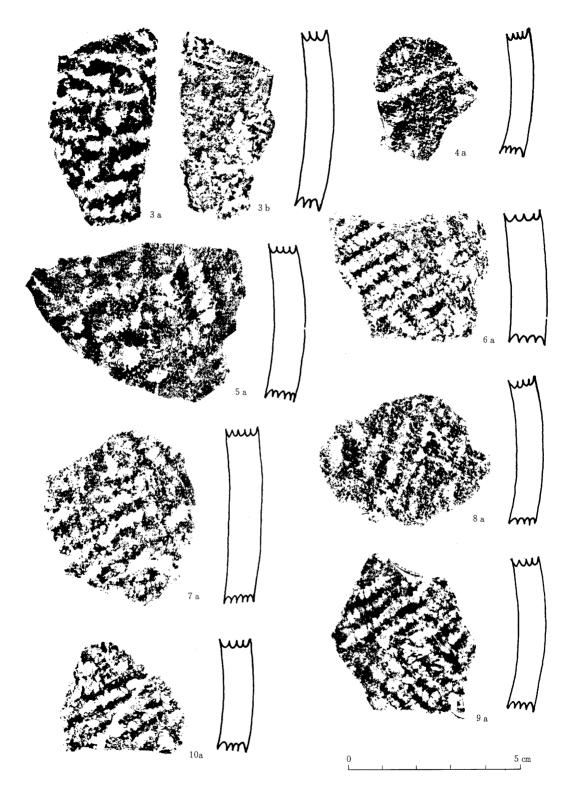
以下、全点を実測図に示し、解説する。

なお、フレイク・チップについては未だ整理が済んでいないため割愛する。

注 計測の基準

長さ 主として形態より長軸を想定し、石器の上下端から、長軸におろした2つの垂線の足間の 距離。

幅・厚さ 長軸に直交する線の実長のうち最大のもの。

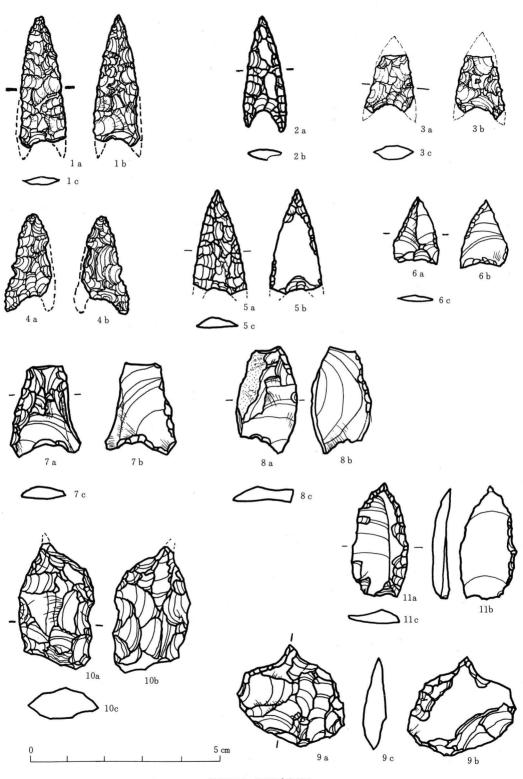


第8図 土器拓影図

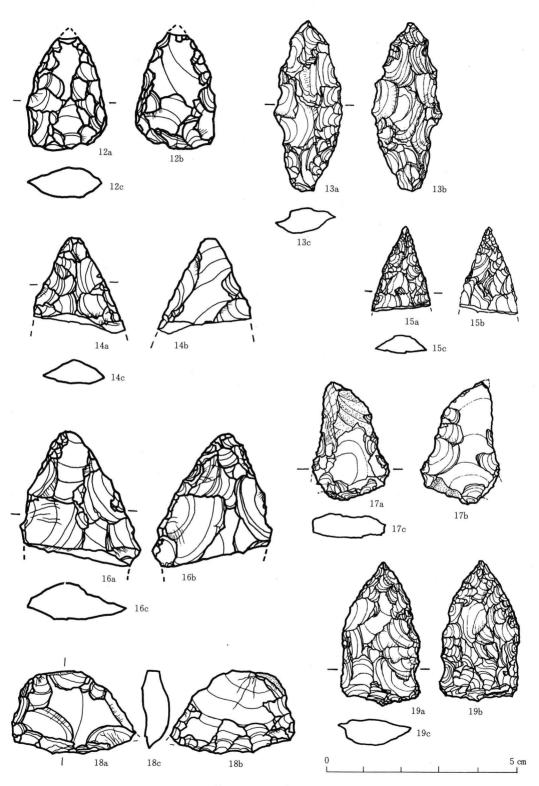
第9図 石器の計測値表

3 (1.4) 石壌。 両面加工 製 図の面は中ほとより下方へ3 (1.1) 石壌。 両面加工 画面とも(水橋) (2.1) 石壌。 両面加工 画面とも(水橋) (2.1) 石壌。 両面加工 画面とも(水橋) (2.1) 石壌。 両面加工 - 1 個辺なよび期密 一部が相。		遺物番号	出が、大	層位	石	地間	⊞ m	初目	量 5	知
15.6 A 18.5 1 4 + - 10 10 10 10 10 10 10		280	B H 21	2	赘	(32)	(12)		(1.4)	,両面加工。 a 図の面は中ほどより下方へ、 ている。両脚部とも欠損。
1979 19 4 40 2 5 5 5 5 5 5 5 5 5	2	346	m	П	1 +	30	11		(1.1)	両面加工。両面ともに火熱に
19 19 19 19 19 19 19 10 10	3	159	B D 40	2	換	(11)	(13)			兩面加工。
73 7.433 2 7 + - 1 1 1 2 5 5 5 5 5 5 5 5 5	4 1	341	BF30	2 0	数 祖	(26)	(10)		6	南面加工。1側辺および脚部一部双損。 半面面加工であるが繁西は11番 両脚絮が744
788 AA33 2	9	723	A A 33	2	E	17	12	1	0.5	三角形に整形し、錯向剝離によって両側辺にもリタ
788	7	748	A A 33	2	1 4	23	17	m	1.3	\$い剝片を台形に整形し、基部と1側辺にリタッチを加えた。基部の内湾する石鏃の未製品の可能性が強 ?。
89 BA43 2 方・一 26 26 7 4.1 819 BA41 2 流 松 岩 30 14 4 1.19 434 BB39 2 方・一 30 14 4 1.19 401 AA33 2 方・一 30 14 4 1.19 401 AA33 2 方・一 30 14 4 1.19 94 BA32 2 元 秋 岩 30 15 15 17 173 BB39 2 方・一 30 12 10 17 173 BB39 2 方・一 31 20 5 (2.9) 174 BB39 2 方・一 31 20 5 (2.9) 175 AA33 2 元 秋 岩 39 31 10 17 176 BA32 2 元 秋 岩 30 12 6 (2.9) 184 BA32 2 元 秋 岩 30 (32) (6) (3.1) 185 BA32 2 元 秋 岩 30 (32) (6) (3.1) 186 BA33 2 元 秋 岩 30 (32) (6) (3.1) 187 BA33 2 元 秋 岩 30 (32) (6) (3.1) 188 BA32 2 元 秋 岩 30 (32) (6) (4.2) 189 BA33 2 元 秋 岩 30 (32) (4) (4.2) 189 BA33 2 元 秋 岩 30 (31) (4.2) 180 AA33 2 元 秋 岩 30 (31) (4.2) 181 BA35 2 元 秋 岩 30 (31) (4.2) 182 BA35 2 元 秋 岩 30 (31) (4.2) 184 BA36 2 元 秋 岩 (38) (31) (4.1) 184 BA36 2 元 秋 岩 (38) (31) (4.1) 185 BA35 2 元 秋 岩 (38) (31) (4.1) 184 BA36 2 元 秋 岩 (38) (31) (4.1) 185 BB37 2 元 秋 岩 (39) (31) (4.1) 184 BA36 2 元 秋 岩 (39) (31) (4.1) 185 BB37 2 元 秋 岩 (39) (31) (4.1) 185 BB37 2 元 秋 岩 (39) (31) (4.1) 185 BB37 2 元 秋 岩 (39) (31) (4.1) 185 BB37 2 元 秋 岩 (39) (31) (31) 185 BB37 2 元 秋 岩 (39) (31) (31) 185 BB37 2 元 秋 岩 (39) (31) (31) 185 BB37 2 元 秋 岩 (39) (31) (31) 185 BB37 2 元 秋 岩 (39) (31) (31) 185 BB37 2 元 秋 岩 (39) (31) (31) 185 BB37 3 元 秋 岩 (39) (31) (31) 185 BB37 3 元 秋 岩 (30) (31) (31) (31) 187 188 3 1 元 秋 呂 (30) (31) (31) (31) 188 1 1 元 秋 呂 (30) (31) (31) (31) 189 1 1 元 秋 呂 (30) (31) (31) (31) 189 1 1 元 秋 呂 (30) (3	∞	788	A A 33	2	1	28	15	4	1.7	を打点側を折り取り、ほぼ台形に整形しる。1側辺に自然面を残す。
819 BA41 2 前 校 岩 (34) 20 8 5.4 697 AA33 2 テャート 30 14 4 1.9 401 AA33 2 テャート 30 14 4 1.9 401 AA33 1 前 校 岩 (35) 18 8 5.1 94 BA32 2 所 校 岩 (37) (77) (2.9) 173 BB39 2 テャート (26) (24) (77) (2.9) 90 BE41 1 前 校 岩 (37) (27) 10 (7.7) 173 BB39 2 テャート (38) (27) 10 (7.7) 669 AA33 2 前 校 岩 (39) (22) (6) (3.7) 164 BA36 2 前 校 岩 (39) (22) (6) (3.7) 164 BA36 2 前 校 岩 (39) (22) (6) (3.7) 165 AA33 2 前 校 岩 (34) 25 (6) (3.7) 166 AA33 2 前 校 岩 (34) 25 (6) (3.7) 167 BA32 2 前 校 岩 (39) (22) (6) (4.2) 168 BA32 1 前 校 岩 (39) (21) (6) (4.2) 169 BA32 2 前 校 岩 (39) (21) (6) (4.2) 160 BA32 2 前 校 岩 (39) (21) (6) (4.2) 161 BA36 2 前 校 岩 (39) (21) (6) (4.2) 162 BA32 2 前 校 岩 (39) (21) (6) (4.2) 163 BA32 2 前 校 岩 (39) (31) (6) (4.2) 164 BA36 2 前 校 岩 (39) (31) (14) (14.5) 165 BA32 2 前 校 岩 (39) (31) (14) (14.5) 165 BA33 2 前 校 岩 (39) (31) (41) (6) (4.2) 167 BA36 2 前 校 岩 (39) (31) (41) (6) (4.2) 168 BA35 1 前 校 岩 (39) (31) (41) (6) (4.2) 151 BA36 2 前 校 岩 (39) (31) (31) (31) 152 BB37 2 前 校 岩 (39) (31) (31) (31) 154 BA35 1 前 校 岩 (39) (31) (31) (31) 157 BA35 2 前 校 岩 (39) (31) (31) (31) 158 BB37 2 前 校 岩 (39) (31) (31) (31) 159 BA32 1 前 校 岩 (39) (31) (31) (31) 151 BA36 1 前 校 岩 (39) (31) (31) (31) 152 BA32 1 前 校 岩 (39) (31) (31) (31) 154 BA35 1 前 校 岩 (39) (31) (31) (31) (31) 155 BA32 2 前 校 呂 (38) (31) (31) (31) (31) (31) 151 BA36 1 前 校 呂 (38) (31)	6	30	B A 32	2	1	26	26	7	4.1	(4 mm)
40.0 40.0 40.0 50 14 4 1.0 1.0 434 BB39 2 5 + 10 20 20 8 5.1 401 AA33 1 前 数 首 45 18 8 5.1 702 AA33 2 前 数 首 20 (20 (7) (2.9) 904 BB30 2 5 + (20 (21) (7) (2.9) 103 BB30 2 5 + - (30 (21) (7) (2.9) 103 BB30 2 前 数 首 (30 (21) (7) (2.9) 104 BA32 2 前 数 首 (30 (21) (7) (7.9) 105 BA32 2 前 数 首 (30 (21) (6) (3.1) 107 AA33 2 前 数 首 (30 (21) (6) (3.1) 108 BB30 2 前 数 首 (30 (21) (6) (3.1) 109 BB30 2 前 数 首 (31) (6) (4.2) 100 BB30 1 5 + - (30 (21) (6) (4.2) 101 BB30 2 前 数 首 (31) (6) (4.2) 102 BB30 1 5 + - (30 (21) (6) (4.2) 103 BB30 1 5 + - (30 (21) (6) (4.2) 104 BA32 2 前 数 首 (30 (30 (3) (4) (4.2) 105 BB30 1 5 + - (30 (31) (6) (4.2) 107 BB30 1 5 + - (30 (31) (6) (4.2) 108 BB30 1 5 + - (30 (31) (4) (4.2) 108 BB30 1 5 + - (30 (31) (4) (4.2) 104 BB30 1 5 + - (30 (31) (4) (4.2) 105 BB30 2 前 数	10	819	B A 41	2	袋	(34)	20	∞	5.4	先端が欠損。
434 BB39 2 5 + h 630	11	269	A A 33	2	1 4	30	14		1.9	
401 AA33 1 施 税	12	434	B B 39	2	1	(30)	20	∞	5.1	て欠損。
732 AA33 2 チャート (26) (24) (77 (2.9) 94 BA32 2 流 数 岩 (27) (15) (15) (1.5) (1.9) 90 BE41 1 流 数 岩 (37) (27) 10 (7.7) 173 BB39 2 チャート 31 (27) 10 (7.7) 659 AA33 2 流 数 岩 (32) 21 7 4.7 659 AA33 2 流 数 岩 (39) (22) (6) (3.7) 154 BA36 2 流 数 岩 (34) 25 6 (6.4) 154 BA36 2 流 数 岩 (34) 25 6 (6.4) 154 BA35 2 流 数 岩 (34) 25 6 (6.4) 18 BA32 2 流 数 岩 (34) 25 6 (6.4) 18 BA32 2 流 数 岩 (34) 25 6 (6.4) 18 BA32 2 流 数 岩 (34) 25 6 (6.4) 103 BB39 1 チャート (36) (21) (6) (4.2) 103 BB39 1 チャート (43) (20) (8) (6.0) 154 BA35 2 流 数 岩 (36) (21) (6) (4.2) 158 BA32 2 流 数 岩 (36) (21) (6) (4.2) 159 BA32 2 流 数 岩 (36) (21) (6) (4.2) 150 BB39 1 チャート (43) (36) (14) (14.5) 151 BA36 2 流 数 岩 (36) (37) (41) (4.5) 152 BA32 2 流 数 岩 (38) (39) (39) (34) (4.5) 154 BA36 2 流 数 岩 (39) (39) (34) (4.5) 155 BA35 2 流 数 岩 (39) (39) (34) (4.5) 156 BB37 2 流 数 岩 (39) (39) (39) (39) (39) (39) (39) (39)	13	401	A A 33	-	汝	45	18	∞	5.1	父頭器。b 図右下部から上部へ、左下部から左上部へと順に剣簾されている。先端部、基部に細かい剣籬を加え、それぞれ尖頭状、細身に仕上げている。両側辺は凹凸が激しい。
94 BA32 2 前 載 岩 (15) (15) (15) (15) (15) (15) (15) (15)	14	732	A A 33	2	1 4	(26)	(24)	2	(2.9)	・頭部の他は欠損している。背面側からの加撃によって欠損。
90 BE41 1 流	15	94	B A 32	2	紋	(23)	(12)	_	(1.3)	・頭部を持つ石器。両面加工。b 図の面は平坦な面をなす。
173 BB39 2	16	06	B E 41	П	類	(37)	(27)		(7.7)	
655 AA33 2 流 校 岩 (32) 21 7 4.7 659 AA33 2 方 ポート 37 21 8 5.2 154 BA36 2 流 校 岩 (39) (22) (6) (3.7) 490 AA33 2 流 校 岩 (39) (22) (6) (3.7) 527 AA33 2 流 校 岩 (39) (21) (6) (3.1) 18 BA32 2 臺西古書 2 24 7 5.7 103 BB39 1 方 ポート (36) (21) (6) (4.2) 104 BA32 2 流 校 岩 (19 3.9 105 BA32 2 流 校 岩 (19 3.9 107 BA33 2 流 校 岩 (19 3.9 108 BB39 1 方 ポート (43) (20) (8) (6.0 93 BA32 2 流 校 岩 (39) (31) (14) (14.5 154 BA32 2 流 校 岩 (39) (39) (14) (14.5 154 BA36 2 流 校 岩 (39) (39) (14) (14.5 154 BA36 2 流 校 岩 (39) (39) (14) (14.5 157 BA32 2 流 校 岩 (39) (39) (14) (14.5 340 BF30 1 方 ポート (54) (36) (19 19.5 152 BB37 2 流 校 岩 (59) (38 15 39.5 154 BA32 2 元 十 (54) (36) (11 15.6 155 BB37 2 減 積 投 (14 36 39.5 154 BA32 2 減 積 投 (14 36 39.5 154 BA33 2 減 積 投 (14 36 39.5 154 BA33 2 減 積 投 (14 36 39.5 154 BA33 2 減 積 投 (14 36 39.5 154 BA35 2 減 積 投 (14 36 39.5 154 BA33 2 減 積 投 (14 36 39.5 154 BA33 2 減 積 投 (14 36 39.5 154 BA33 2 減 積 投 (14 36 39.5 154 BA33 2 減 積 投 (14 36 39.5 154 BA33 2 減 積 投 (14 36 39.5 154 BA33 2 減 積 投 (14 36 39.5 154 BA35 1 減 積 投 (14 36 39.5 154 BA35 1 減 積 投 (14 36 39.5 154 BA35 1 減 積 投 (14 36 39.5 154 BA35 1 減 積 投 (14 36 39.5 154 BA35 1 減 積 投 (14 36 39.5 154 BA35 1 減 積 投 (14 39.5 154 BA35 1 減 積 (14 39.5 154 BA35 1 減 積 (14 39.5 154 BA35 1 減 積 (14 30.5 154 BA35 1 減 積 (14 30.5 155 BA35 1 減 積 (14 30.5 155 BA35 1 減 積 (14 30.5 156 BA35 1 減 積 (14 30.5 157 BA35 1 減 積 (14 30.5 158 159 10 10 159 10 10 10 150 10 10 150 10 10 150 10 10 150 10 10 150 10	17	173	B B 39	2	 +	31	20		(2.9)	剣片素材。背面上部に自然面を残す。両側辺下方、基部に粗い剣簾を施す。腹面は主要剣籬面を大きく残し、 両側辺に剣離を加えた。素材の形態自体が尖頭形を呈していた。側辺上部に刃こぼれが見られる。
559 AA33 2 元十一 37 21 8 5.2 5.2 1.2	18	69.5	A A 33	2	籢	(32)	21	7	4.7	リタッチ
721 AA33 2 流 校 岩 (38) 12 6 (2.9) (2.0) (4.	19	629	A A 33	2	1	37	21	8	5.2	片素材。両面加工。さらに両側辺下部より上部へ細かいリタッチが加えられ、刃部および尖頭部を形成。
154 BA36 2 流 校 岩 (34) (22) (6) (3.7) 450 AA33 2 流 校 岩 (34) (25) (6) (6.4) 527 AA33 2 美元十二章 32 (21) (6) (3.1) 103 BA32 2 美元十二章 32 (24) (2.5) (3.1) 103 BA32 2 第 校 岩 (12) (6) (4.2) 103 BA32 2 統 校 岩 (13) (20) (8) (6.0) 104 BA32 2 統 校 岩 (13) (20) (8) (6.0) 105 AA33 2 統 校 岩 (38) (31) (14) (14.5) 104 BA36 2 統 校 岩 (59) (38) (10) (4.2) 105 BA35 2 統 校 岩 (38) (39) (14) (14.5) 106 BA36 2 統 校 岩 (59) (38) (14) (14.5) 107 BA36 2 統 校 岩 (59) (38) (14) (14.5) 108 801 表 校 統 校 岩 (59) (38) (15) (14) (14.5) 107 BA36 2 元 校 岩 (59) (38) (15) (14.5) 108 BA37 2 統 校 岩 (59) (38) (15) (15) (15.5) 107 AA33 2 擁 校 岩 (38) (39) (14) (15.5) 107 BA38 1 統 校 岩 (37) (41) (16.5) (39.5) 108 BA37 2 擁 校 岩 (37) (38) (38) (39) (39.5) 109 BA38 1 擁 校 岩 (38) (38) (39) (39.5) 109 BA38 1 擁 校 岩 (38) (39.5) (39.5) 109 BA38 1 擁 校 岩 (38) (39.5) (39.5) 109 BA38 1 擁 校 岩 (38) (39.5) (39.5) 109 BA38 1 擁 校 岩 (38) (39.5) (39.5) 109 BA38 1 擁 校 岩 (38) (39.5) (39.5) 109 BA38 1 擁 校 岩 (38.5) (39.5) (39.5) 109 BA38 1 擁 校 岩 (38.5) (39.5) (39.5) 109 BA38 1 擁 校 岩 (38.5) (39.5) (39.5) 109 BA38 1 擁 校 上 (38.5) (39.5) (39.5) 109 BA38 1 擁 校 上 (38.5) (39.5) (39.5) 109 BA38 1 擁 校 上 (38.5) (39.5) (39.5) 109 BA38 1 擁 校 上 (38.5) (39.5) (39.5) 109 BA38 1 擁 校 上 (38.5) (39.5) (39.5) 109 BA38 1 擁 校 上 (38.5) (39.5) (39.5) 109 BA38 1 擁 校 上 (38.5) (39.5) (39.5) 109 BA38 1 擁 校 上 (38.5) (39.5) (39.5) 109 BA38 1 擁 校 上 (38.5) (39.5) 109 BA39 1 擁 校 上 (38.5) (39.5) 109 BA38 1 描 전 (38.5) (39	20	721	A A 33	2	效	(38)	12		(6.9)	送形・細身の石匙。両面加工。背面方向からの加撃によって下部が欠損。
490 AA33 2 統 岩 (34) 25 6 (6.4) 6.4 6	21	154	B A 36	2	潋	(38)	(22)		(3.7)	刃部に直交する方向からの加撃によって
S27 AA33 2 5 + (26) (21) (6) (3.1)	22	490	A A 33	2	緓	(34)	22		(6.4)	対辺はつぶれており、
70 BA32 2 義中	23	527	A A 33	2	1	(26)	(21)		(3.1)	側辺に刃路をもつ。半両面加工。主要剣艦面を大きく残す。腹面方向からの加撃によって欠損。腹面に盛り上がりを残し、両側辺の端近くにえぐりがある。石匙の未製品の可能性もある。
18 BA32 1 流 校 岩 12 10 4 2.0 18 BA33 2 流 校 岩 12 10 4 2.0 186 AA33 2 流 校 岩 13 16 7 3.9 186 AA33 2 流 校 岩 13 16 7 3.9 193 BB39 1 ティート (30 (21) (6) (4.2) 194 BA32 2 年 ナート (31) (30 (4.2) (4.2) 184 BA36 2 流 校 岩 (38) (39) (14) (14.5) 800 素採 ティート (54) (38) (14) (14.5) 800 素採 ディート (54) (38) (14) (14.5) 800 素採 ディート (54) (38) (14) (14.5) 152 BA32 2 元 ヤート (54) (39) (14) (14.5) 153 BA32 2 元 ヤート (54) (38) (19 19.5 154 BA43 2 元 本 日 (54) (36) (19 19.5 155 BA33 2 元 女 日 (54) (38) (15 19.5 241 BE30 1 流 校 岩 (13) (13) (13) (13) (14) (14.5 241 BE30 1 流 校 岩 (13) (13) (13) (13) (14) (14.5 154 BA36 1 流 校 岩 (13) (13) (13) (14) (14.5 155 BA35 1 流 校 岩 (13) (13) (14) (14.5 157 BA36 1 流 校 岩 (13) (13) (14) (14.5 158 158 11 底 校 (14.5 11) (14.5 159 150 11 流 校 (14.5 11) (14.5 150 150 11 14.5 150 150 11 14.5 150 150 11 14.5 150 150 11 14.5 150 150 14.5 14.5 150 150 14.5	24	70	B A 32	2	世出	32	24	2	5.7	小片を楕円形に整形し、両側辺にリタッチを加え、刀部を形成。片面加工。一端に自然面を残す。
18 BA32 1 流 校 岩 12 10 4 2.0 786 AA33 2 流 校 岩 41 36 5 6.3 786 AA33 表採 流 校 岩 36 16 7 3.9 103 BB39 1 テャート (36) (21) (6) (4.2) 104 BA32 2 至 キート (43) (20) (8) (6.0) 154 BA36 2 流 校 岩 (38) (33) (14) (14.5) 340 BF30 1 チャート (54) (35) 11 (17.7) 152 BA32 2 流 校 岩 (57) (41) 16 (34.0) 152 BA33 2 チャート (54) (36) 10 (22.5) 152 BA33 2 チャート (54) 36 10 (22.5) 154 BA43 1 流 校 岩 47 29 11 15.6 155 BB37 2 減 (47.2) (47.2) (47.2) 154 BE30 1 減 (47.2) (47.2) (47.2) 241 BE30 1 減 (47.2) (47.2) (47.2) 1 1 1 1 1 1 (47.2) 1 1 1 1 1 1 (47.2) 1 1 1 1 1 (47.2) 1 1	25	299	B E 30	2		25	22	9	2.7	劉片素材。打面, 主要網離面の多くを残す。側辺部基部側に大きな劉離を加え整形している。背面は、左側辺 基部に粗い網離が、剣片末端には細かなリタッチが施されている。
802 AA33 2 流 核 岩 41 36 5 6.3 786 AA33 麦採 流 核 岩 (3) 16 7 3.9 103 BB39 1 チャート (43) (20) (8) (4.2) 605 AA33 2 チャート (43) (20) (8) (6.0) 93 BA32 2 チャート (54) (35) 11 (17.7) 801 麦採 チャート (54) (38) 11 (17.7) 801 麦採 流 核 岩 (59) 38 15 (43.0) 800 麦採 流 核 岩 (59) 38 15 (43.0) 340 BF30 1 チャート (54) (36) 38 15 (43.0) 340 BF30 1 チャート (54) 38 15 (43.0) 340 BF30 1 チャート (54) 38 15 (35.1) 152 BBA32 2 チャート (54) 36 10 (25.5) 152 BBA43 1 流 核 岩 77 39 11 15.6 241 BBA33 2 株石女山省	26	18	B A 32		汝	12	10	4	2.0	引片の基部、両側辺にリタッチが認められる。
786 AA33 表探 流 紋 岩 36 16 7 3.9 103 BB39 1 チャート (36) (21) (6) (4.2) 93 BA32 2 チャート (43) (20) (8) (6.0) 34 BA36 2 流 紋 岩 (38) (33) (14) (14.5) 800 表探 チャート (54) (35) 11 (17.7) 800 表探 流 紋 岩 (59) 38 15 (43.0) 340 BF30 1 チャート (54) 36 10 (22.5) 25 BA32 2 流 紋 岩 (57) (41) 16 (34.0) 152 BB37 2 流 紋 岩 47 29 11 15.6 717 AA33 2 流石安山岩 55 32 13 21.7 241 BE30 1 流石安山岩 55 32 13 21.7 241 BA36 1 種石安山岩 (133) 85 34 (604) 1 BA36 1 種石安山岩 (133) 85 34 (604)	27	802	A A 33	2	換	41	36	2	6.3	打面の残る薄い剝片の周辺にリタッチないし刃こぼれが認められる。
103 BB39 1	28	786	A A 33	茶茶	岩谷	36	16	7	3.9	が上来材。打面を除去し、1側辺に基部から末端へと順にリタッチを加え、他側辺は折断した。腹面は平坦である。
800 BF30 2 チャート (43) (20) (8) (6.0) 3 BA32 2 蛋白石 36 27 10 9.4 154 BA36 2 流 紋 岩 (38) (33) (14) (14.5) 800 表採 流 紋 岩 (59) 38 15 (43.0) 340 BF30 1 チャート (54) 36 10 (22.5) 25 BA32 2 チャート (54) 36 10 (22.5) 152 BB37 2 第	29	103	B B 39	П	1 4	(36)	(21)		(4.2)	¶面加工。リタッチの加えられた鋭い1辺を持つ。
93 BA32 2 蛋白石石 36 27 10 9.4 3 表探 チャート (54) (35) 11 (17.7) 801 表探 流 粒岩 (38) (33) (14) (14.5) 800 表探 流 粒岩 (57) (41) 16 (34.0) 340 BF30 1 チャート (54) 36 10 (22.5) 25 BA32 2 チャート (54) 36 10 (22.5) 152 BA32 2 チャート (54) 36 10 (22.5) 717 AA33 2 種存山岩 55 32 13 21.7 241 BE30 1 種存山岩 55 32 13 21.7 25 BA32 1 種存山岩 55 32 13 21.7 241 BE30 1 種存山岩 55 32 13 21.7 241 BA32 1 種存山岩 55 32 34 (604) 1 BA32 1 種存女山岩 55 32 34 (604)	30	605	A A 33	2	1	(43)	(20)	(8)	(0.9)	ッチを加え、刃部を作出している。
3	31	93	B A 32	2	Щ	36	27	10	9.4	
154 BA36 2 流 紋 岩 (38) (33) (14) (14.5) 800 表採 流 紋 岩 (59) 38 15 (43.0) 340 BF30 1 チャート (51) 35 15 (35.1) 25 BA32 2 チャート (54) 36 10 (22.5) 152 BB37 2 様石安山岩 (55) 32 13 (21.7) 717 AA33 2 様石安山岩 (55) 32 13 (57.6) 241 BE30 1 様石安山岩 (55) 32 13 (57.6) 241 BE30 1 様石安山岩 (55) 32 13 (57.6) 241 BE30 1 様石安山岩 (55) 32 13 (57.6) 25 BA32 1 様石安山岩 (55) 32 13 (57.6) 26 BA32 1 様石安山岩 (55) 35 13 (57.6) 27 BA33 1 様石安山岩 (55) 35 13 (57.6) 27 BA32 1 様石安山岩 (55) 35 13 (57.6) 27 BA33 1 様石安山岩 (55) 35 13 (57.6) 28 BA35 1 様石安山岩 (55) 35 34 (604) 27 BA36 1 様石安山岩 (55) 35 518	32	3		桜茶	1 4 4	(24)	(32)	11	(17.7)	両面加工。さらに周辺に細かい劉離が施されている
801 表採 流 紋 岩 (59) 38 15 (43.0) 800 表採 流 紋 岩 (57) (41) 16 (34.0) 340 BF30 1 チャート 51 35 15 35.1 25 BA32 2 チャート 51 36 10 (22.5) 152 BB37 2 チャート 51 36 10 (22.5) 154 BA43 1 流 紋 岩 47 29 11 15.6 171 AA33 2 種石安山岩 55 32 13 21.7 241 BE30 1 種石安山岩 55 32 13 21.7 2 BA32 1 種石安山岩 65 32 13 21.7 2 BA32 1 種石安山岩 65 32 13 21.7 2 BA32 1 種石安山岩 61 35 35 18 1 BA36 1 種石安山岩 77 35 301 2 BA32 1 種石安山岩 77 35 301 2 BA32 1 種石安山岩 77 35 35 18	33	154	A.	2	緓	(38)	(33)	(14)	(14.5)	
800 表検 流 紋 岩 (57) (41) 16 (34.0) 340 BF30 1	34	801		表 採	荒教	(65)	38	15	(43.0)	腹面側からの剣簾によって作出された、湾曲した厚い刃部を持つ。刃部には磨耗痕が認められる。基部は尖っている。周辺に欠損部分がある。
3 表探 チャート 51 35 15 35.1 35.1 35.1 35.1 35.1 35.1	35	800		茶茶	旄	(57)	(41)	16	(34.0)	5篦。剣片を素材とし末端に刃部を作出。半両面加工。刃部は再生されたものである(パティナの程度が異 よる)両側辺はつぶれて鋭利さを失なっている。基部、刃部に欠損部分がある。
3 表保 チャート (54) 36 10 (22.5) 25 BA32 2 チャート 51 36 10 19.5 152 BB37 2 3	36	340	[14	H	1	51	35	15	35.1	石窟。劉片素材。基部に打面を残す。両側辺は鈍い。刃部には背面側に細かいリタッチが施され、若干摩耗 痕が認められる。
25 BA32 2 チャート 51 36 10 19.5 152 BB37 2 簿 73 38 15 39.5 717 AA33 2 簿 47 29 11 15.6 241 BE30 1 簿 77 35 31 2 BA32 1 簿 47 29 11 15.6 2 BA32 1 簿 47 29 11 15.6 2 BA32 1 簿 47 29 17 35 301 2 BA32 1 簿 47 29 17 35 301 1 BA36 1 簿 47 29 17 35 318	37	60			1 4	(54)	36	10	(22.5)	ゴ篦。剣片素材。末端a 面側に細かいリタッチを施し刃部を作出。刃部b 面側にパティナの程度が異なる剝 能面がある。刃部には摩耗痕が認められる。
152 BB 837 2 簿 15 38 15 39.5 54 BA 43 1 流 稅 岩 47 29 11 15.6 717 AA 33 2 椰石安山岩 55 32 13 21.7 241 BE 30 1 椰石安山岩 84 77 35 301 2 BA 32 1 椰石安山岩 (133) 85 34 (604) 1 BA 36 1 椰石安山岩 111 87 35 518	38	25	B A 32	2	1 +	51	36	10	19.5	主要知癖面を大きく残すが、両側辺基部側に大きな剣籬面がある。背面下部にリタッチを加え、尖頭部および刃部を作出。刃部には摩耗痕が認められる。
54 BA43 1 流 粒 岩 47 29 11 15.6 717 AA33 2 椰石安山岩 55 32 13 21.7 241 BE30 1 椰石安山岩 84 77 35 301 2 BA32 1 椰石安山岩 (133) 85 34 (604) 1 BA36 1 椰石安山岩 111 87 35 518	39	152	B B 37	2		73	38	15	39.5	タッチを加えた。
717 AA 33 2 #石安山岩 55 32 13 21.7 241 BE 30 1 #石安山岩 84 77 35 301 2 BA 32 1 #石安山岩 (133) 85 34 (604) 1 BA 36 1 #石安山岩 111 87 35 518	40	54	B A 43		緓	47	29		15.6	表裏面ともに自然面を残す。1辺に厚い刃部を持つ。刃部は再生されたものである(パティナの程度が異なる。)
241 BE30 1 #石安山岩 84 77 35 301 2 BA32 1 #石安山岩 (133) 85 34 (604) 1 BA36 1 #石安山岩 111 87 35 518	41	717	A A 33	2	輝石安山岩	55	32	13	21.7	(材質に由来する)。
2 BA32 1 準石安山岩 (133) 85 34 (604) 1 BA36 1 #石安山岩 111 87 35 518	42	241	BE30			84	77	35	301	. 図の面に4個,b面に1個,四みがある。 四みの深さは1mm程度で極めて浅い。 ####################################
1 BA36 1 7単石女山石 111 87 33 318 阿山に47.9 かた背殿が高の 941-8。	43	2 -	B A 32		本石安山石	(133)	85	34	(604)	垣面に磨威が明簾に認められる。周辺の一部に設打現が認められる。 1五面アセポセル 魔滅が弱かられる - 囲辺の一端に敲打道が認められる。
	44	-	D A 30	-			70	ce	oIc	

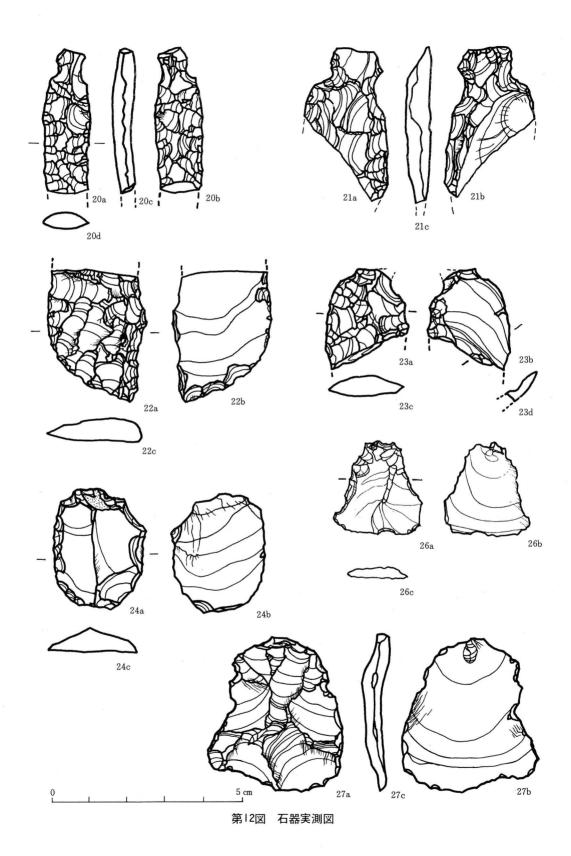
^{※ ()} は欠損のため、本来の値を示すものではない。

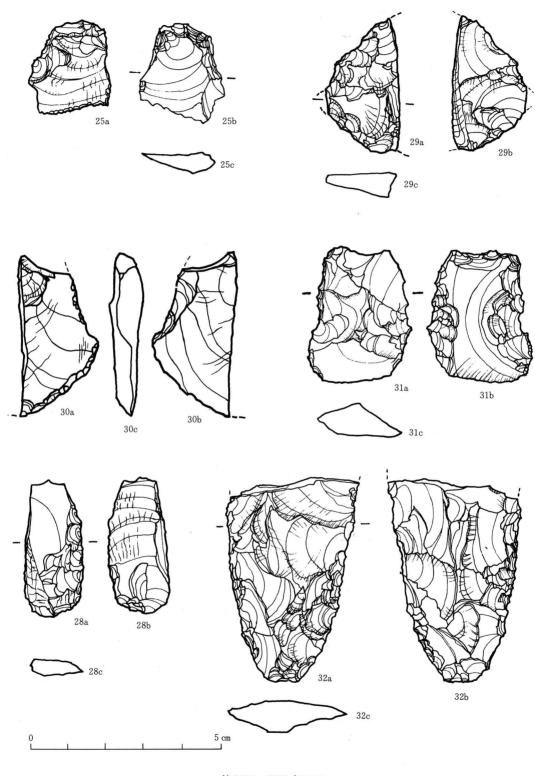


第10図 石器実測図

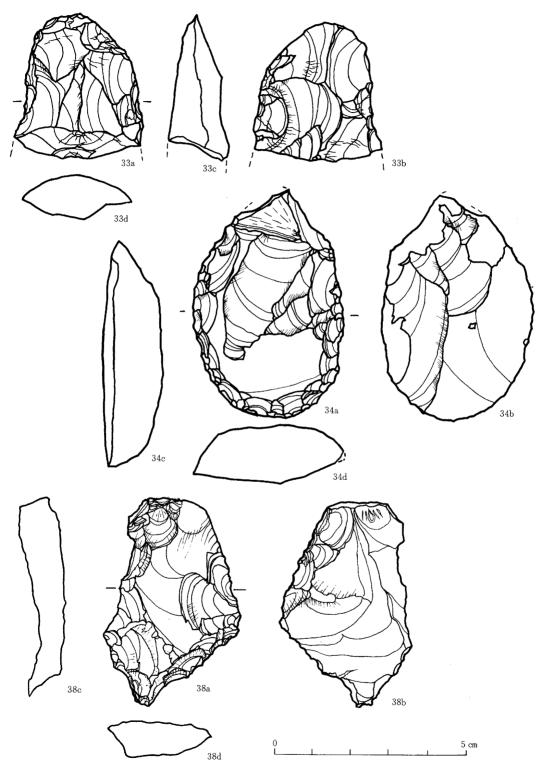


第11図 石器実測図

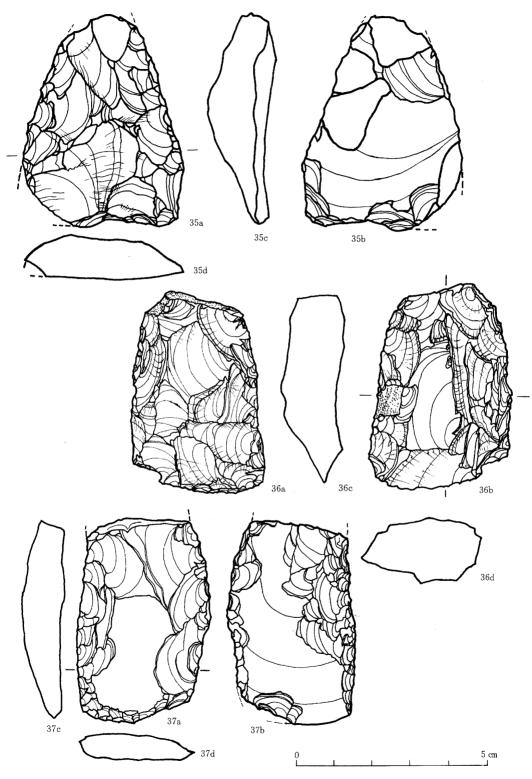




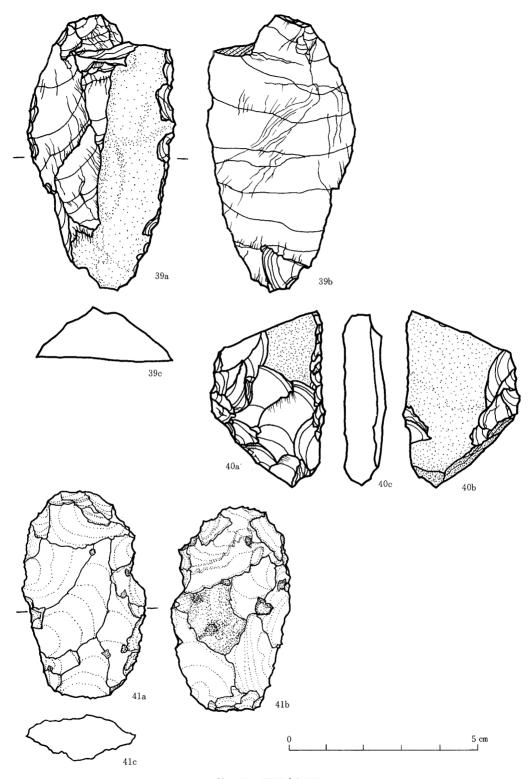
第13図 石器実測図



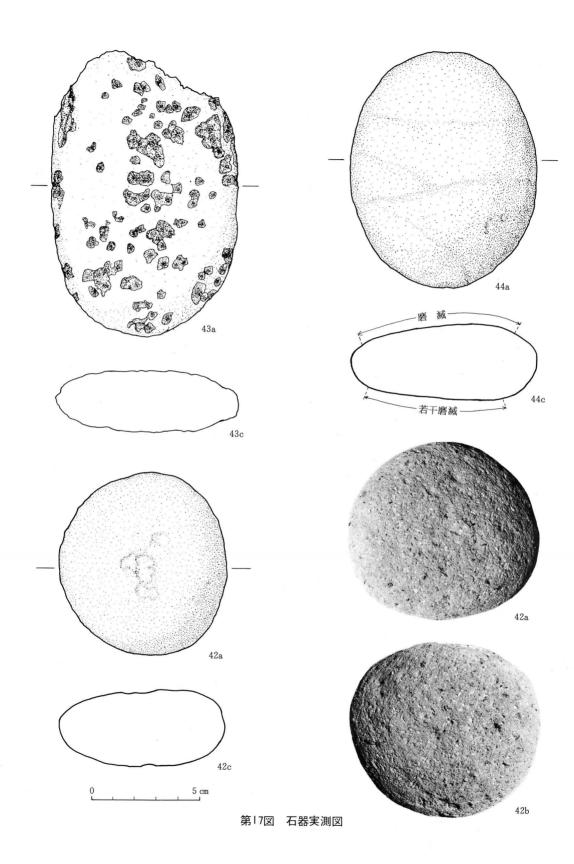
第14図 石器実測図



第15図 石器実測図



第16図 石器実測図



Ⅲ 考察とまとめ

1. 遺跡について

今回の調査対象区域は三部山遺跡全体からみれば、西端のやや傾斜する部分にあたり、調査の結果、A区B区とも基盤までの堆積は2層で、C区は1層の単純な層序であった。

遺物はC区からは全く出土せず、A・B区についても量的には非常に少なく、出土状態もまとまりをもたず、おおむね第2層より出土しているが、明瞭な遺物包含層は確認できず、遺構や生活面を明らかにすることはできなかった。

調査前の表面観察にも感じたことだが、遺物の散布は調査対象区域の東側に多くみられた。 調査でもB区よりもA区がチップを含む遺物の出土量が多く、このことは精査グリッドの結果 からも確かめられた。三部山遺跡の主要部分は調査対象区域の東側、つまり残された区域にあ る可能性が強く、調査区域は遺跡の末端部分にあたるものであろう。

2 土器について

今回の調査によって出土した土器は、そのほとんどが胎土中に植物性繊維を含んだ繊維土器であったが、層位的には把握されなかった。すべてが体部破片で、非常に脆く、全体形を知るものは勿論、口縁部の形態を知るものさえなかった。

沈線文土器(1)は繊維を含まず、文様の短い斜めの沈線は、> 状につくものと考えられる。 蔵王町の明神裏遺跡に類似の土器がみられ、関東の田戸上層式に併行するものと思われる。

縄文条痕土器はたった1片の出土であり、型式は速断はできないが、表面に粗大な縄文が付されて、内面に条痕を持つものであるが、その施文は退化を示すものか、やや浅い条痕である。 さらに、繊維の含入がやや多く、吸水性の強いものである。両面がひび割れて非常に脆い土器 である。

繊維含入量、胎土、焼成、施文などからみて、素山Ⅱb 式よりは、やや下るものではないかと考えられる。

羽状縄文土器は、東北南半では前期初頭の特徴的な文様であるが、本遺跡出土の土器も、繊維を含む結束のない羽状縄文で、大木1式に位置づけられるものであろう。

繊維を含まない単節の斜縄文土器(11)は、中期以降の一型式と考えられるが不明である。 薄手の無文土器は、繊維を含み裏面に調整擦痕をもつものであるが、上記のいずれの土器に 伴うものか不明で、厚手の無文土器との関係も解明できなかった。しかし、いずれにしてもこ の両者は、繊維を含み、調整擦痕を有する土器で、早期末から前期初頭に位置づけられる土器 であろう。

3. 石器について

今回の調査による石器・フレイク・チップの出土総量は約700点をこす。このうち44点を石器として確認し、実測図を作製した。

このなかに 2点の未製品(7、8)と思われる石器がある。調査中にも問題となった点に、 出土するチップのなかに、非常に小さい径 1 cm以下の微細片の量が多いことと、未製品石器の 出土である。つまり第 1 次的石器製作場から、未製品の石器を当調査区に持ち込み整形した、 第 2 次的な加工の場があったのではないかということである。

しかし、この問題は発掘中には解明できなかった。 今後、チップの整理が進み、石器との接合 剝片などの発見があれば、第2次的な加工の場もあらためて考えられよう。

4 まとめ

- 1. 本調査区からは、遺構、遺物包含層は発見されなかった。これは遺跡の主体部がもっと東にあり、当調査区は三部山遺跡の末端部にあたるためであろう。
- 1. 本調査区から、縄文時代早期末から前期初頭にかけての遺物と、縄文時代中期以降の一時期の遺物、石器類、さらに江戸時代末期の遺物が出土した。
- 1. 本遺跡は向山遺跡などとともに、土器の採集されない特異な遺跡として知られていたが、今回の調査によって、編年的位置づけがなされた。

参考文献

山内清男 昭 4 関東北における繊維土器

伊東信雄 昭15 宮城県遠田郡不動堂村素山貝塚調査報告

伊東信雄 昭32 宮城県古代史・宮城県史1

山内清男 昭33 縄文土器の技法

菅野一郎編 昭37 日本の土壌型

芹沢長介・林謙作 昭40 岩手県蛇王洞洞穴

林 謙作 昭40 縄文文化の発展と地域性―東北

飯沼寅治編 昭42 白石・蔵王・七ヶ宿社会郷土資料集

興野義一 昭42 大木式土器理解のために(1)

後藤勝彦 昭43 宮城県七ヶ浜町吉田浜貝塚

白鳥良一 昭49 仙台市三神峰遺跡の調査

宮城県高等学校理科研究会地学部会編 昭50 宮城県の地質案内

宮城県文化財調査報告書第46集 宮城県遺跡地名表

片倉信光・後藤勝彦・中橋彰吾 昭51 白石市史・考古資料編

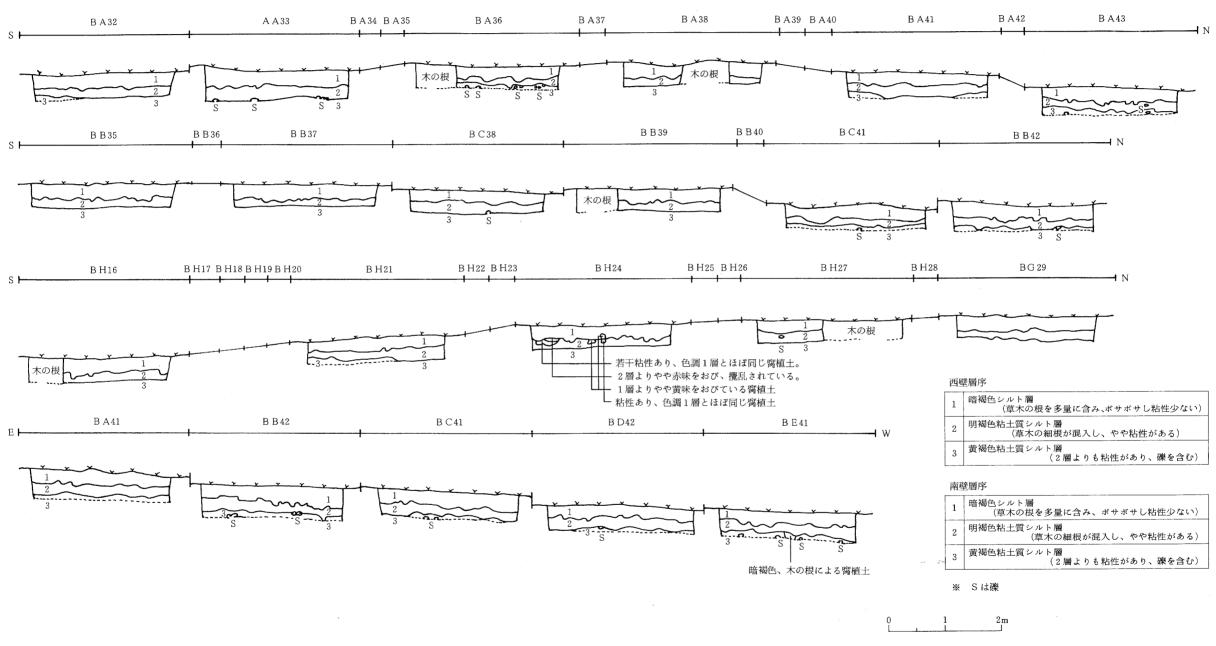
₩ あとがき

今回の調査は、事前調査や調査体制は必ずしも十分ではなかった。また解明できなかった問題もあったが、前述のような成果をおさめ得たことは、宮城県教育庁文化財保護課をはじめ、関係各機関や調査に参加した地元の協力者等、多くの方々の絶大な援助によるもので、厚く感謝の意を表するものである。

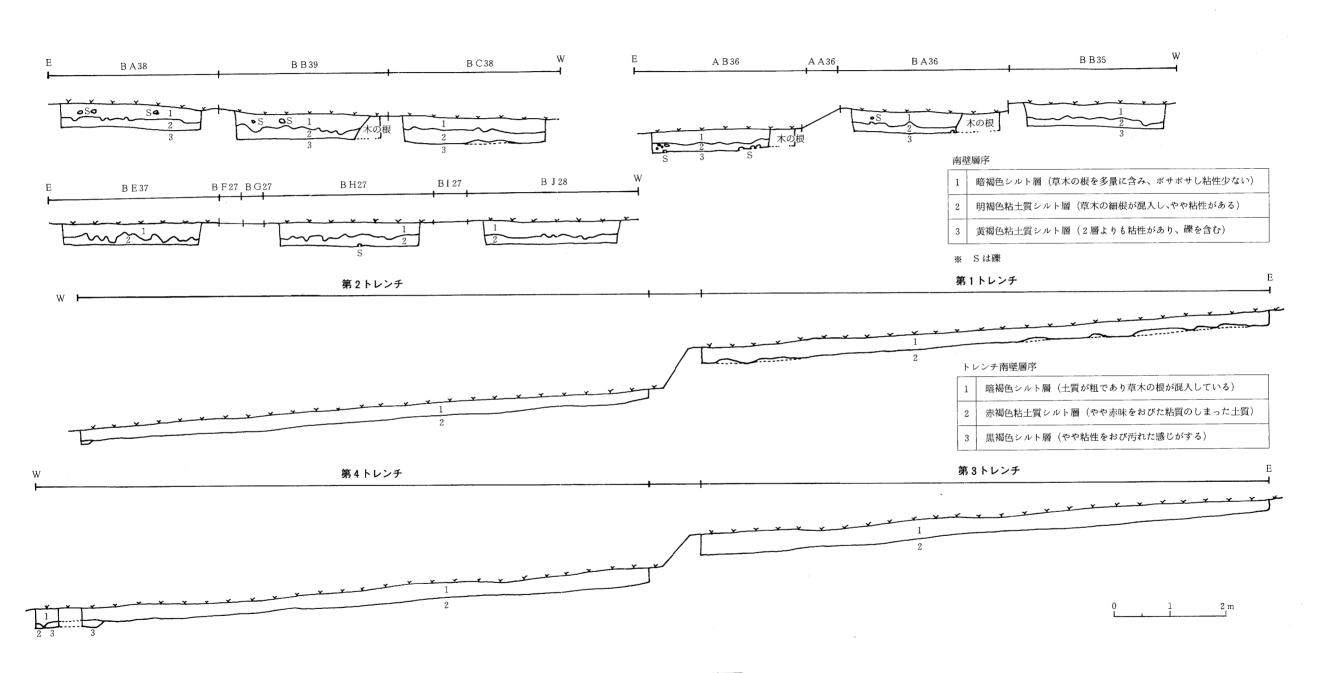
本稿を草するにあたり、東北大学考古学研究室の諸氏より数々の御指導、助言を得た。また、 本遺跡の植物の調査を心よく引受けていただいた上野雄規、佐々木敏雄の両氏、石質の同定を いただいた駒板典義氏に対して、執筆者一同記して感謝の意をささげるものである。

特に、白石市教育委員会社会教育課長、佐久間克、同課長補佐、太斎 享の両氏、並びに小野壱産業(株)専務、佐久間勝市氏はじめ金井勝三氏ほか同社の多くの方々に対しても、重ねて感謝の意を表するものである。





第18図 グリッド壁面図



第19図 グリッド、トレンチ壁面図



遺跡遠望



三部山遺跡 (北から)





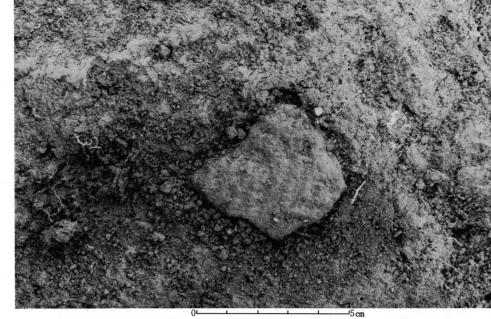
三部山遺跡C区



B A 32グリッド土器 出土状況 (遺物No.10)



B A 32グリッド土器 出土状況 (遺物No.11)

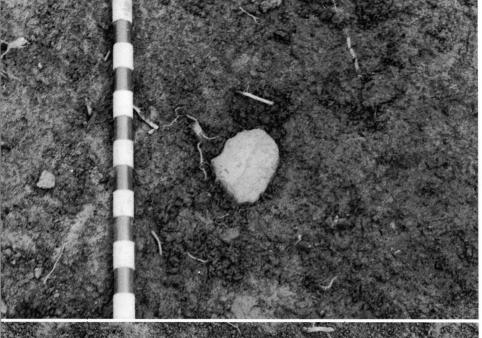


BB37グリッド土器 出土状況(遺物No.6)



BB37グリッド土器 出土状況(遺物No.5)

B H21グリッド石器 出土状況(遺物No.1)



B A 32グリッド石器 出土状況 (遺物No.24)



B A 36グリッド石器 出土状況(遺物No21)



BB37グリッド石器 出土状況 (遺物No.39)



BB39グリッド石器 出土状況(遺物No.12)



A A 33グリッド石器 出土状況 (遺物No.20)



A A 33グリッド石器 出土状況(遺物No.11)



A A 33グリッド石器 出土状況 (遺物No.41)



BB39グリッド木炭 チップ出土状況



AA33グリッド西壁



BB35グリッド西壁



BE41グリッド西壁



BA41グリッド西壁



BD42グリッド西壁



BB42グリッド西壁



BA43グリッド西壁



AA33グリッド南壁



BA36グリッド南壁



BA38グリッド南壁



BD40グリッド南壁



BA41グリッド南壁



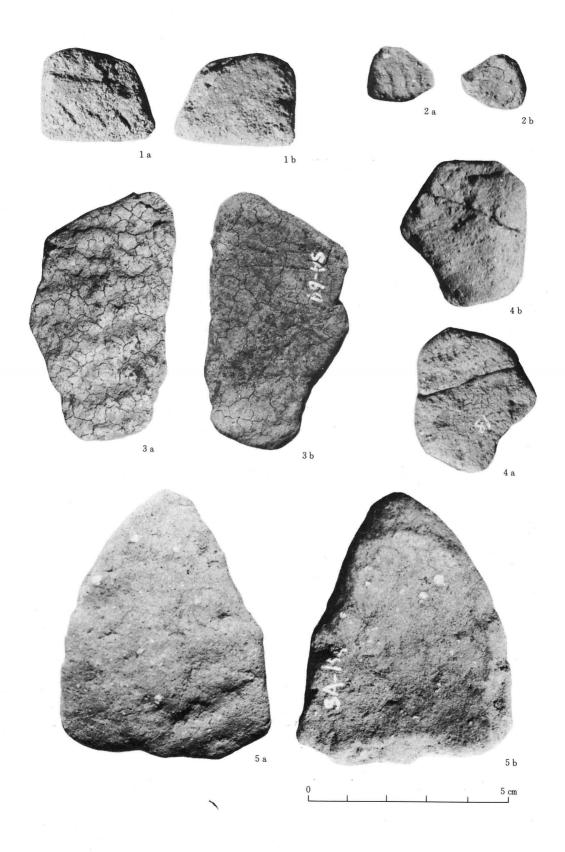
BD42グリッド南壁

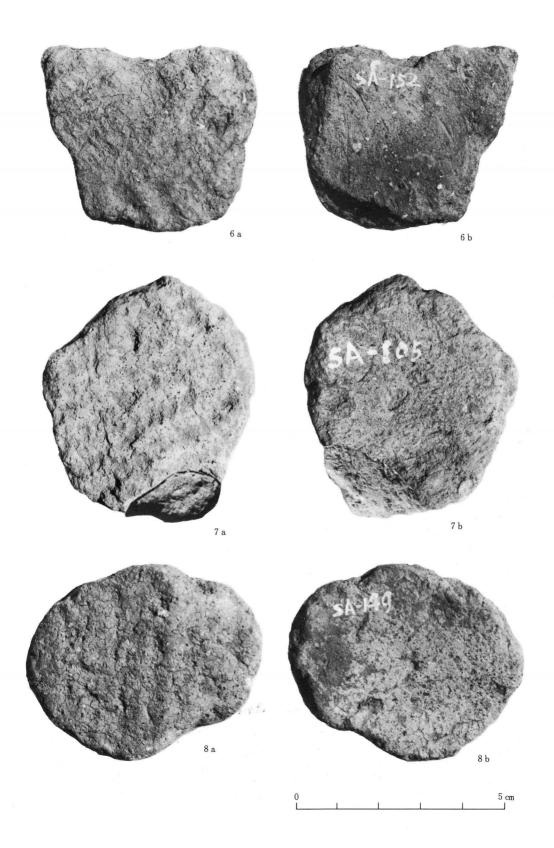


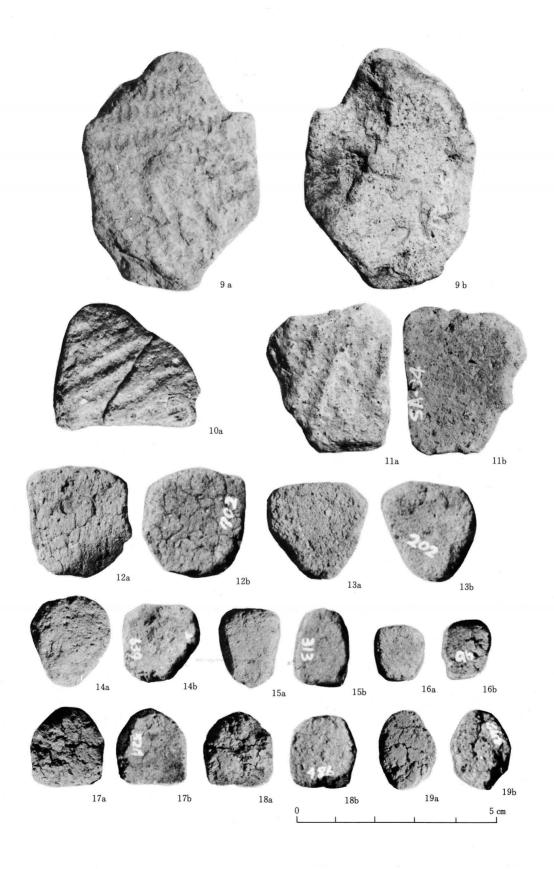
C区第1トレンチ

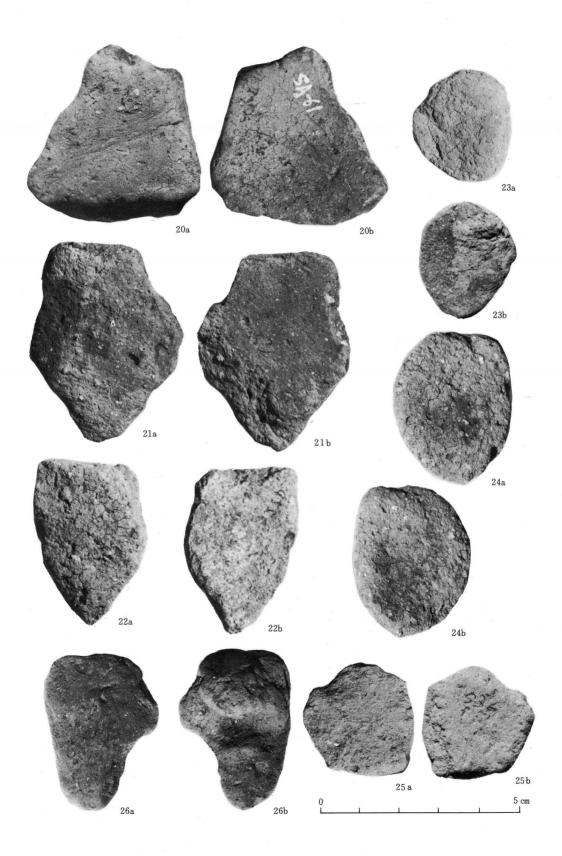


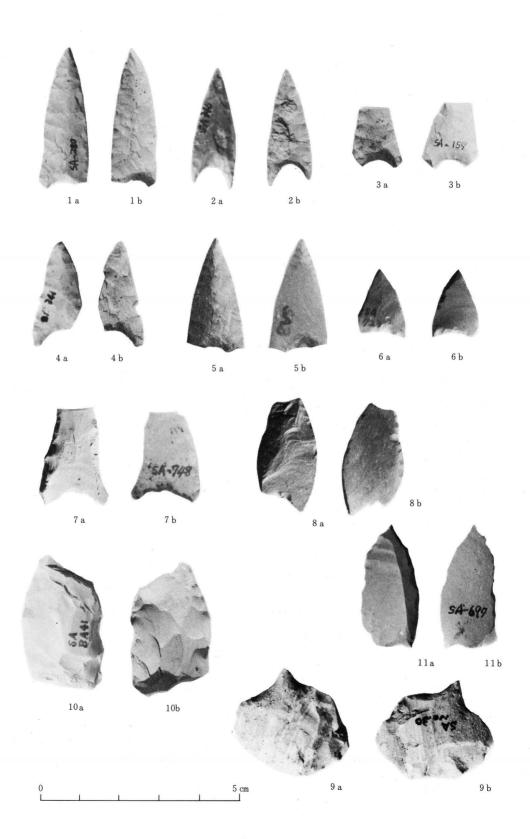
C区第4トレンチ

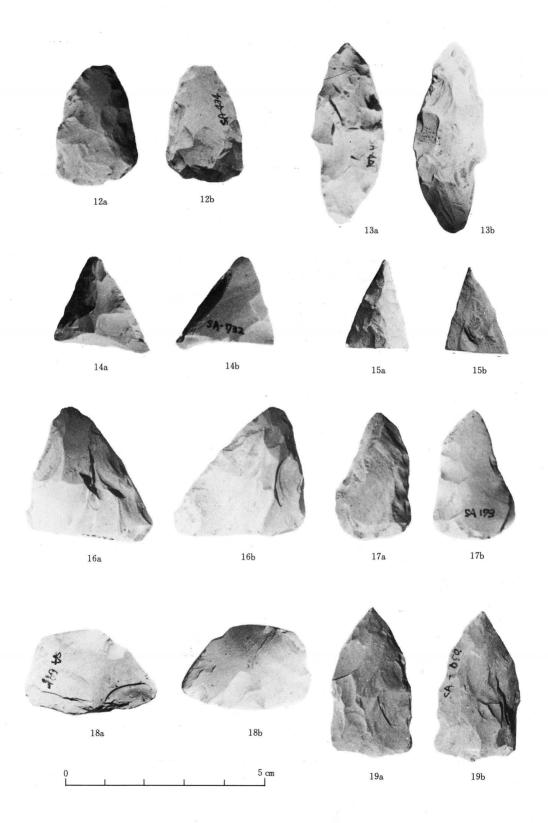


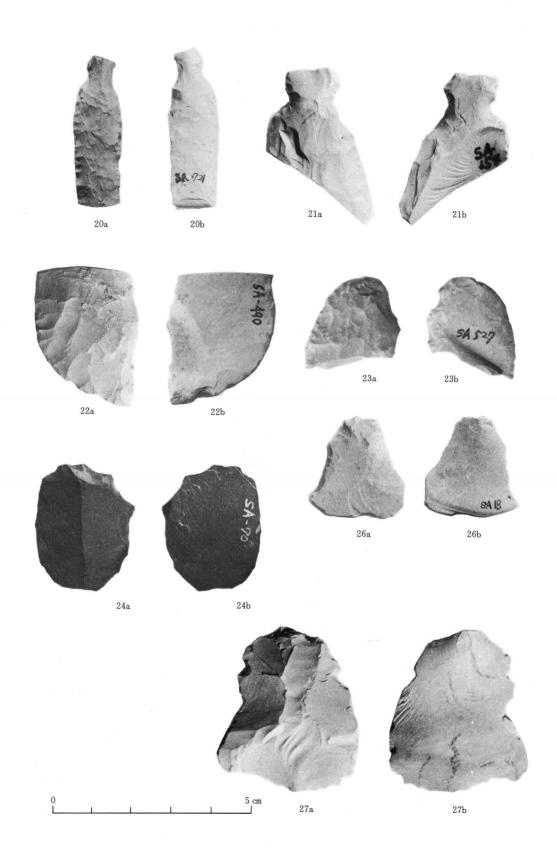


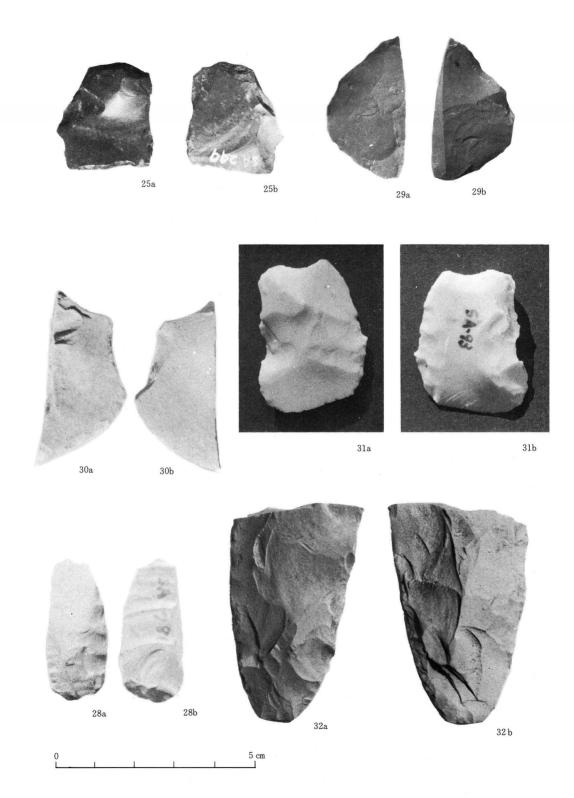


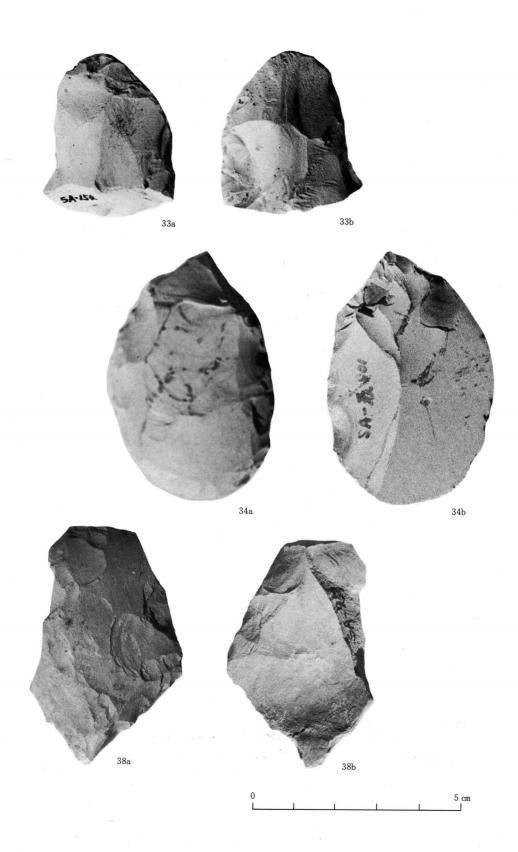




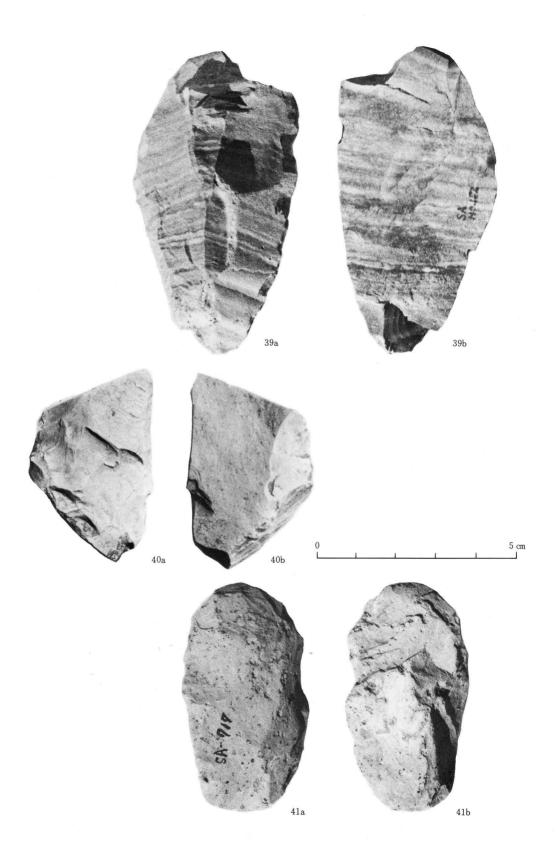


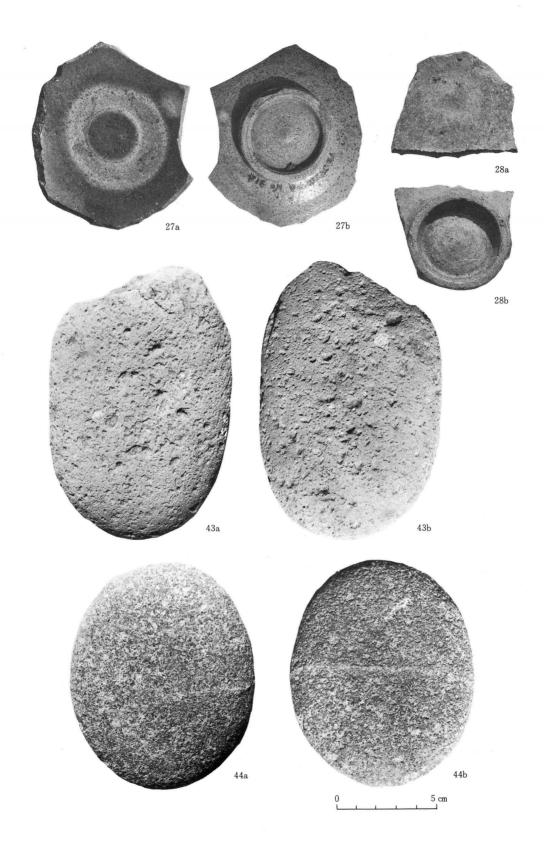












三部山遺跡調査報告書正誤表

頁	行	誤	正
まえがき	8	· 工事者側	当事者側
7.	17	雅樹	稚 樹
17	20	写真33	21行目に移す。
34	24	斉 藤	斎 藤
34	16	完掘りし	完掘し
34	21	完掘り。	完掘。
34	28	完掘りし	完掘し
35	4	完掘り。	完掘。
35	4	完掘りし、	完掘し、
35	15	完掘り。	完掘。
35	22	完掘りし、	完掘し、

白石市文化財調查報告書第17集

三部山遺跡調査報告書

昭和52年3月21日印刷 昭和52年3月31日発行

発行 白石市教育委員会 宮城県白石市桜小路35 TEL5-2111

野 英 雄 白石市福岡長袋字下神明 4

印刷 株式会社 東北プリント 仙台市立町24-24 電話25)6466

